

十和田八幡平国立公園
十和田八甲田地域

東京大学フィールドスタディ型
政策協働プログラム
オリエンテーション
2019年4月16日・17日

「テーマ」

～人口急減地域における地域コミュニティの作り方～

「官×民×学 「協働」 のしくみづくり」



01 現地活動フィールド

平成17年1月1日 十和田市、十和田湖町合併

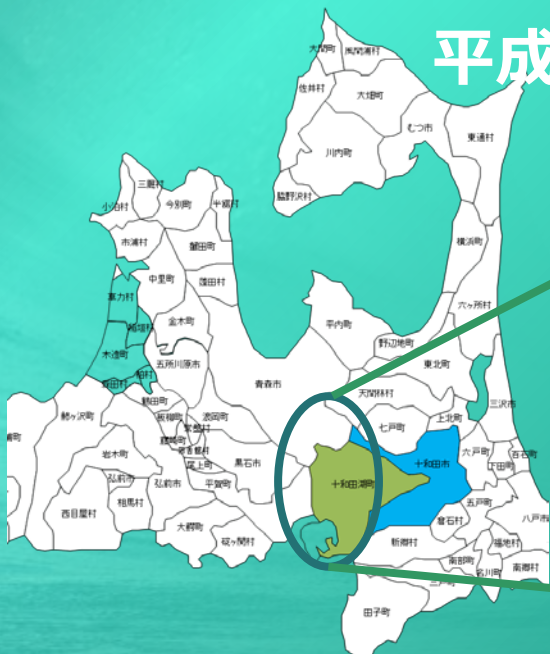
青森県十和田市

✓ 平成30年3月31日 十和田湖畔休屋十和田八甲田地域

世帯数95 人口217人→196人

✓ 十和田湖小学校 児童数5名→2名

平成30年4月1日小中学校統合

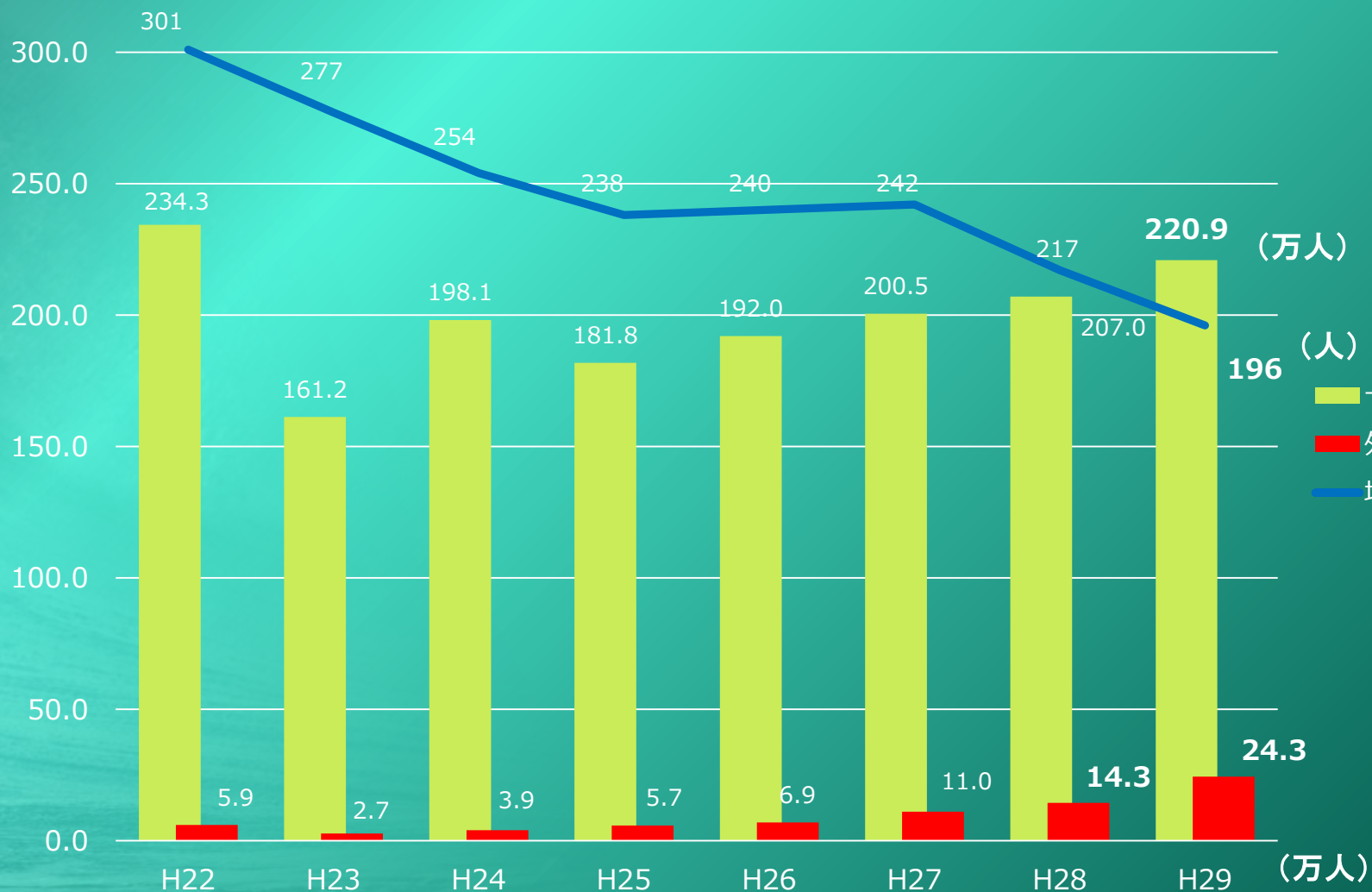


◆十和田湖休屋地区
十和田八幡平国立公園





十和田八甲田地域観光入込数 十和田湖休屋地区地域住民人口推移



観光客回復基調
地域経済への影響



人口減少
止まらない

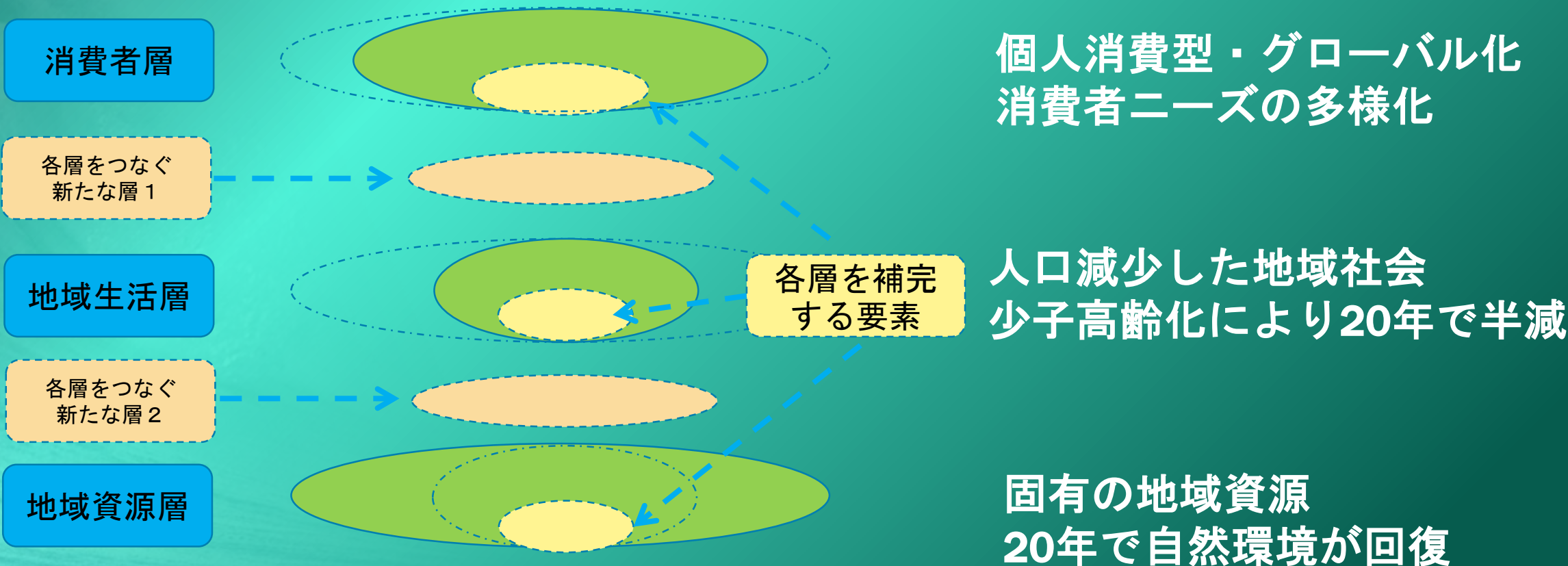
2017年度 活動テーマ 「自然保護と利活用を両立する共生社会」



2018年度 活動テーマ

地域資源を体感する

～持続可能な地域社会のしくみづくり～



多様な知見を活用し地域社会の未来像を道筋提案

2018年度 活動テーマ

地域資源を体感する

～持続可能な地域社会のしくみづくり～

消費者層

将来の人口減少は止められない
仮説：新たな地域の社会システムが必要ではないか？

各層をつなぐ
新たな層1

地域生活層

各層を補完
する要素

人口減少した地域社会
少子高齢化により20年で半減

各層をつなぐ
新たな層2

地域資源層

固有の地域資源

検証：人口減少の進行した地域では
何を将来的に備えていくべきか



「官×民×学 「協働」 のしくみづくり」 － 3つの課題から未来を探る －

【課題から未来を探る1】

過去 団体から個人型へ
未来 若者が訪れる場へ

【取組1】

地域を応援する学生から
～国立公園を学びの場に～

【課題から未来を探る2】

過去 交通の発達が通過型へ
未来 四季の自然を豊かな癒しへ

【取組2】

十和田湖の深い魅力から
～滞在周遊するしくみへ～

【課題から未来を探る3】

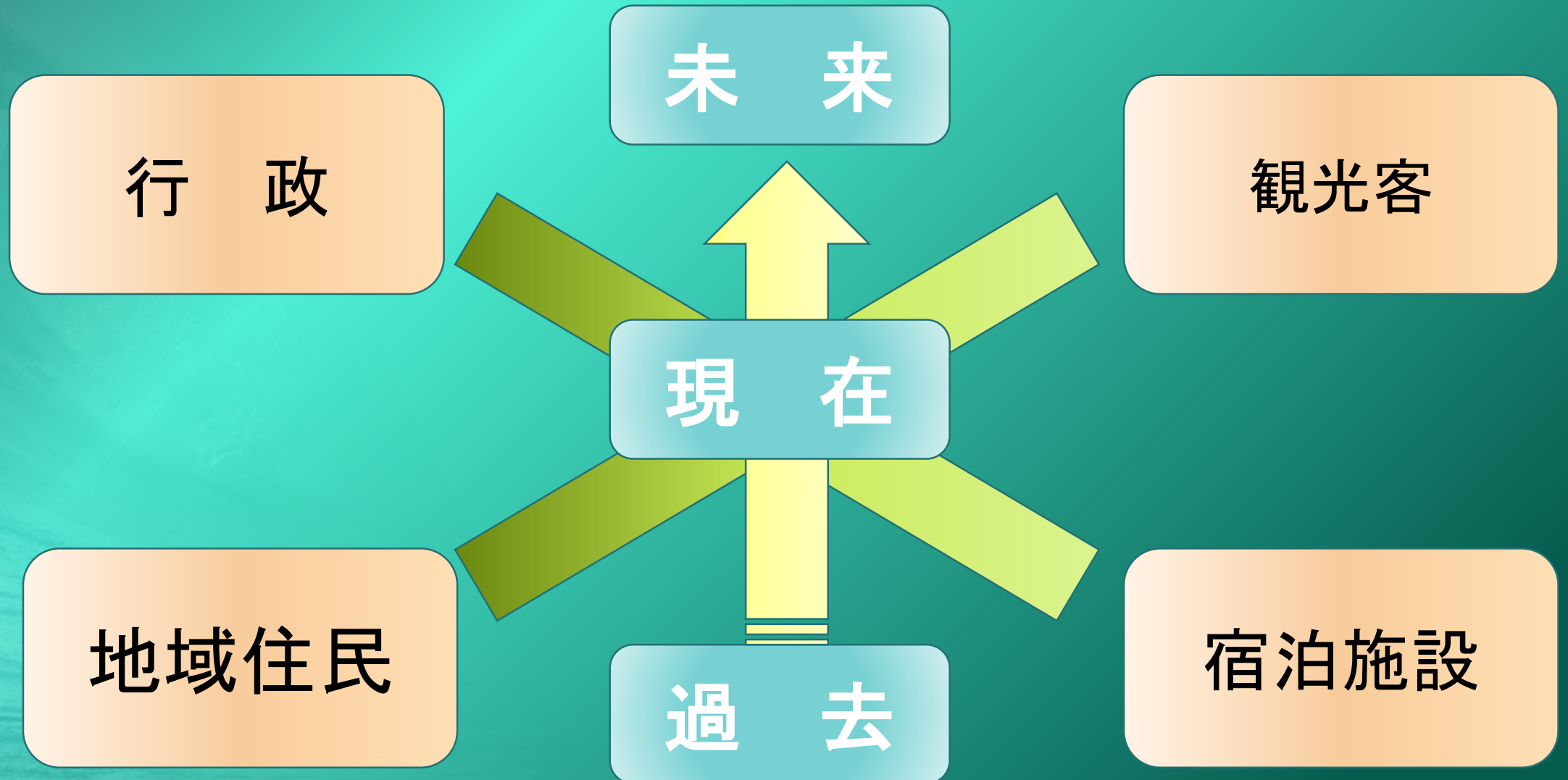
過去 住民が地域をつくる
未来 地域外と未来をつなぐ

【取組3】

地域内外のつながりから
～地域コミュニティへ～



「官×民×学 「協働」 のしくみづくり」 －多様な主体の一人として「奔走」－





「官×民×学 「協働」 のしくみづくり」 －多様な主体の一人として「奔走」－





地域における取組 ～国立公園再生活動～

国立公園満喫プロジェクト
～国立公園の魅力を世界に～

十和田湖ウォーク50km
～豊かな自然を踏破する～



5月1日
募集予定



十和田湖ヒルクライム
～紅葉の樹林を登り切る～

固有の自然を
生かした活動

十和田湖マラソン
～神秘の湖を駆け抜ける～



9月実施
募集予定



4月1日
募集中





活動地域と現地活動スケジュール

実施場所	目的	地域	募集人数	活動期間
青森県 十和田市	地域資源を体感する持続可能な地域社会のしくみづくり	十和田湖休屋地区	3名程度	1年間 (夏、秋、冬の季節毎の活動を推奨)

4月16日、17日

- 学内オリエンテーション

5月参加学生決定

- 地域、学内専門知教員への事業概要説明課題設定
- 年間スケジュール等の検討
- 現地経験学生からの引き継ぎ(5月~7月)

夏期現地活動
(8月~9月)

- 現地活動10日間程度

秋期現地活動
(10月)

- 夏期現地活動からの専門知の収集整理
- 最終報告に向けた道筋検討

冬期事後調査・
現地報告会(2月)

- 事後調査、整理
- 現地報告会
- 振り返り、最終提言整理

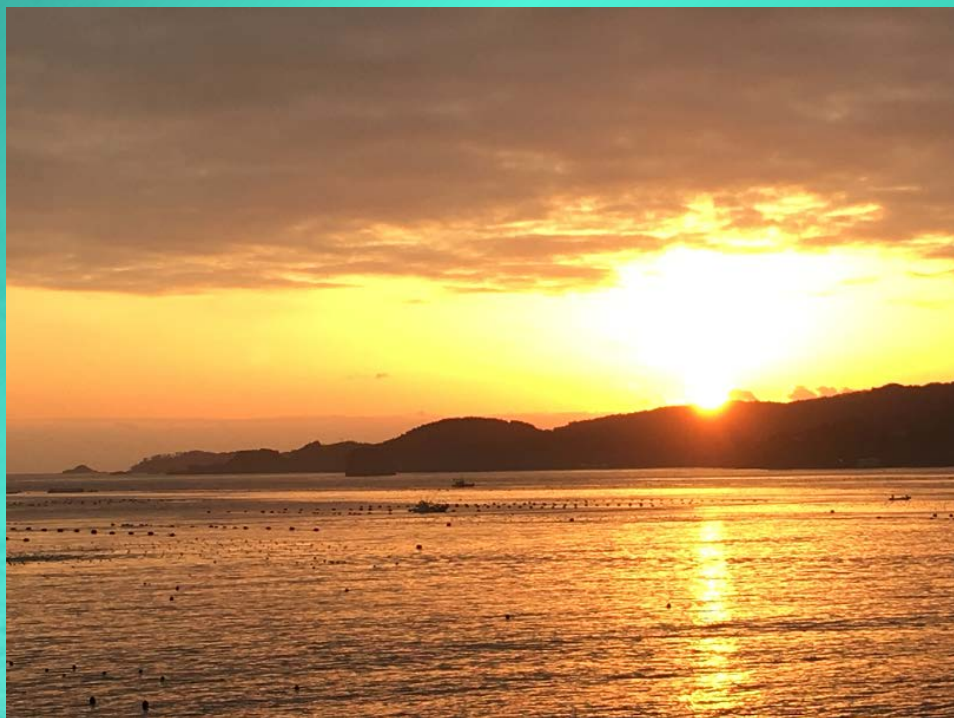
3月学内報告会

- 地域資源、専門知の最終整理
- 学内報告会



— 地方の課題から世界貢献へ —
東日本大震災から8年・その影響を現地で感じる機会

「皆さんの声」を青森県の「未来の地域づくり」にお届けください。
心よりご応募をお待ちしております！



青森で踏み出す一歩は
東北の震災復興に
寄与したいと願う第一歩

冬の魅力を世界へ発信！



ダケカンバの森



十和田湖紫明亭



十和田湖冬物語

ゆる～い「絆」でつながる

東京大学フィールドスタディ型 政策協働プログラム提案書



ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy

『フルーツ・ランド』を核とする 戦略的地域振興策



山形県 鶴岡市 櫛引庁舎 産業建設課

1.

山形県鶴岡市の概況



ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy

羽田空港	JAL/60分	山形空港	空港ライナー 約30分	山形市内
羽田空港	ANA/60分	庄内空港	庄内交通/25分 庄内交通/35分	鶴岡市内 酒田市内
東京駅	東北・山形新幹線 【つばさ】1時間57分	米沢	30分	山形
			10分	天童
			33分	新庄

鶴岡市 山形県の海岸部に位置

平成**17**年**10**月**1**日に6つの市町村が合併。
人口 **129,652** 人 (※H27国勢調査)
面積 **1,311.53** km² (東北1位)



黒川能

櫛引地域 鶴岡市南部に位置

人口 **7,243** 人 (※H27国勢調査)
面積

『果樹産地』産直・観光果樹園
国指定無形民俗文化財「黒川能」
肥後加藤(清正)家終焉の地「丸岡城跡」



丸岡城跡・楽朋館

POINT 果樹の少量多品種産地

■品種

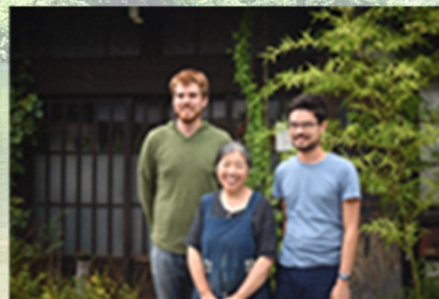
サクランボ、もも、ぶどう、和梨、洋梨、りんご、柿

■観光果樹園

17箇所／櫛引
17,617人／H30

■産直めぐり

年商 155百万円
会員数 99人



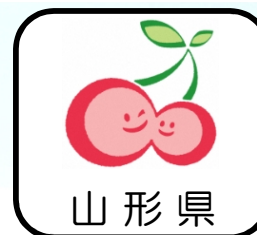
農家民宿



観光果樹園



鶴岡の食文化概況



ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy

食と風土の博物館構想

(鶴岡ガストロノミー フィールド ミュージアム構想)

食文化と農林水産業を主軸とする観光振興[通年]

鶴岡ツーリズム

◆インバウンド研修、収穫体験、手作り体験

文化の祭典[ビエンナーレ]

食と風土の祭典

◆2012 Long runイベント開催



ユネスコ食文化創造都市(2014/12認定) (国内唯一)

ユネスコ創造都市ネットワークを通じて、世界の創造都市と交流を深めると共に「世界の食文化創造都市」としての魅力国内外に強くアピールし、鶴岡食文化の存在感を高めていきます。(全7分野: 食分野認定: 世界26都市・日本1都市 鶴岡市)

◆料理人育成事業(海外派遣、自主研修)、Food Guide(食文化と旅行者を繋ぐ)



農水省 SAVOR JAPAN(農泊 食文化海外発信地域) (2016認定)

鶴岡市の価値ある食文化資源を活かし「食文化の学び」と「体験の場」を提供することで、世界中から食文化を楽しみ、学ぶ人々を鶴岡に誘客することによる地域産業の振興と、地域資源を維持発展させる好循環を形成する地方創生の取り組みを実践する。

☆出羽三山の精神文化・日本遺産
～自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」～



☆城下町・日本遺産
～サムライゆかりのシルク～

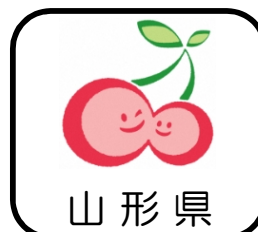


5年後(H31)へインバウンド10倍計画
外国人旅行者 4,000人→40,000人へ

(延べ宿泊数)

- 内対象国: フランス・イタリア・ドイツ
・アメリカ・オーストラリア
- 平成28年度 / **12,000人泊** (延べ宿泊数)
- 満足度 **80%以上**

3. 櫛引食文化の現状と課題

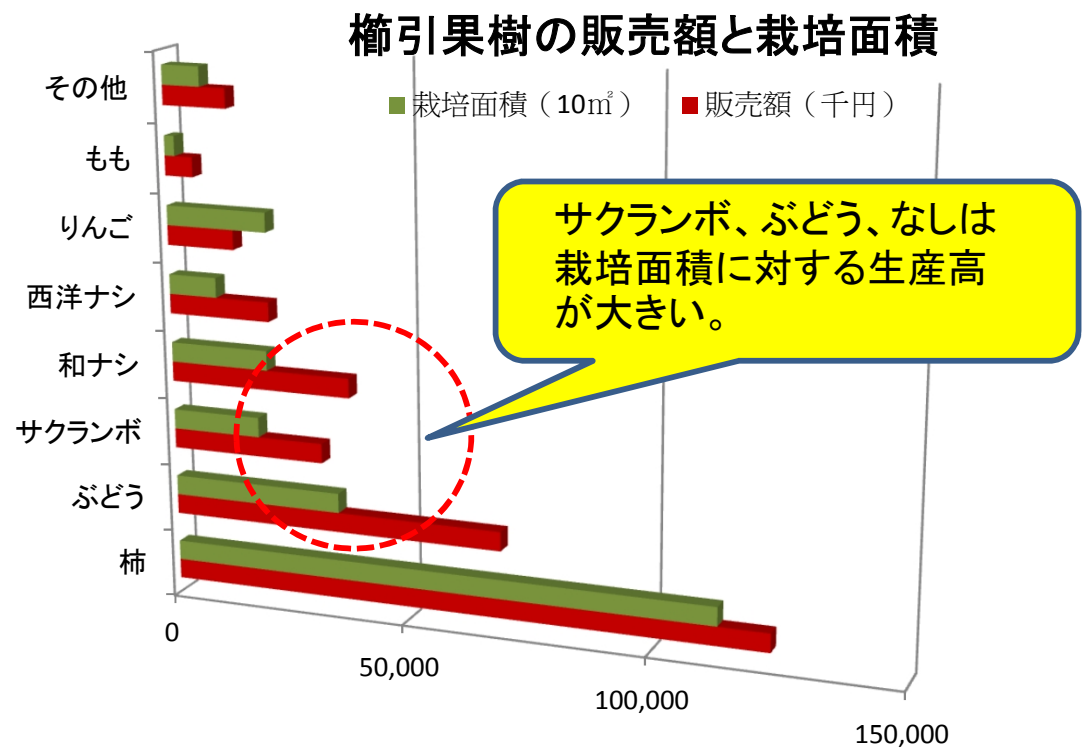
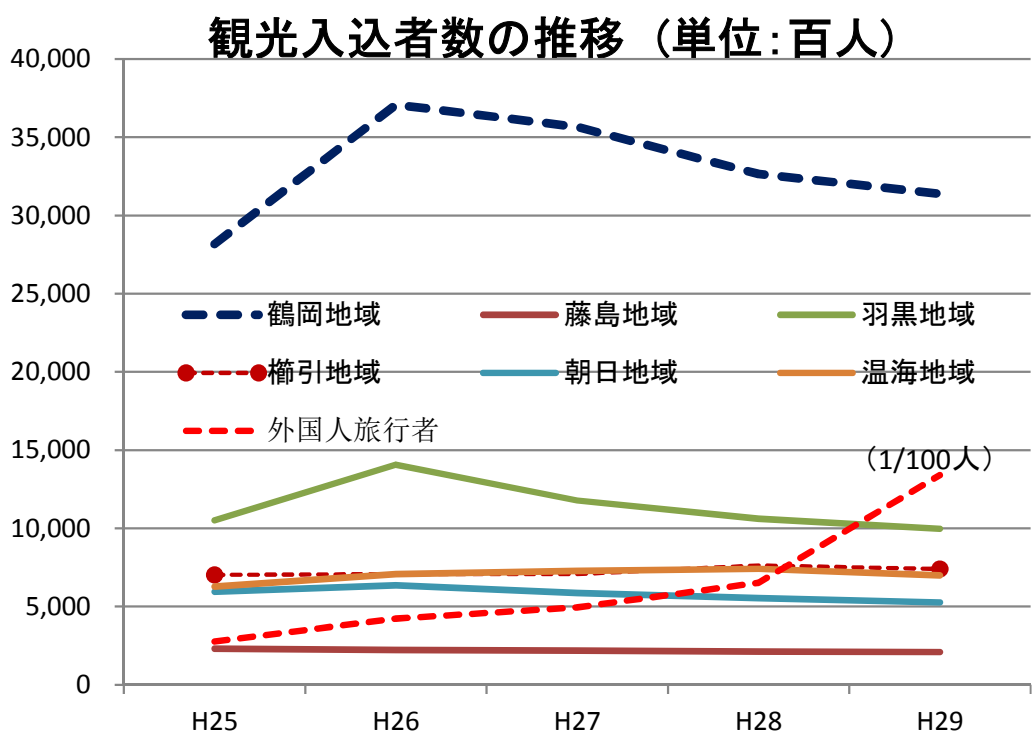


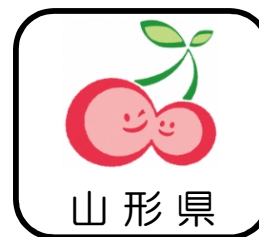
【現状】

- 鶴岡ツーリズムを推進し、食文化を活かした観光振興と農林水産業の成長を目指している。
- 鶴岡ツーリズムにおける体験型観光の目玉に観光果樹園の取り組みを推進している。
- 鶴岡にあって櫛引地域は果樹産地のメッカ（さくらんぼ、桃、ぶどう、和・洋ナシ、りんご、庄内柿等）

【課題】

- ◆ **【観光課題】** 鶴岡への観光客は「加茂水族館」と「羽黒山」の**2強**（それぞれ**600千人/年**）。インバウンド観光客は倍増。（それでも**13千人/年**）櫛引地域は**黒川能や果樹**の魅力を観光客呼び込みに活かしていない。（**740千人/年**）
- ◆ **【果樹振興】** 櫛引の果樹は**多品種少量生産**。さくらんぼは直売や観光果樹園収入が大。柿は耕地面積が大きくJA出荷や産直販売が大。果樹の労働体制は**生産が手一杯で6次商品化まで発展させきれていない**。収入拡大の可能性は高い。





産直あぐり(産直、レストラン、加工)



産直あぐり周辺の『FRUIT LAND』 構想での 稼げる果樹戦略

- ① 果樹×観光×6次化の視点から見た「FRUIT LAND 経営戦略」のアイデア提案
⇒ データ分析等による事実や法則の発見
- ② 鶴岡を元気にするための「櫛引果樹ブランド」化の提案（ユネスコ食文化都市×櫛引果樹）
⇒ 少量多品目産地の目指すところ。



吉澤画伯のFruit Landイメージ図

2018年度 東大FS型政策協働PJからの提案 (現地活動報告より)

① 櫛引屋(くしびきや)

◆ 櫛引の美味しい食の
首都圏アンテナショッ
プ(広島、京都、東京)
! 東大五月祭での出店

② メタボローム解析 技術を応用した旨味 元素構成分析

◆ 美味果実の元素構成比
率によるおいしさアピール

③ デマンド交通庭 先集配システム

◆ 観光2次交通×デマン
ド交通×庭先集荷の交
通新システム

現地活動風景





受け入れ地域 山形県鶴岡市櫛引地域 **人数** 3～5人

受け入れ期間 6月中旬～6月下旬 **さくらんぼの季節**

※柔軟な対応が可能 8月下旬～9月中旬 **ぶどうの季節**

行政の支援 現地活動を支援します。

果樹園組織や住民、地域おこし協力隊等との連携・交流のセッティング
観光果樹園、産直施設、農家民宿、観光施設等の案内や手配等

フィールドワークのプログラム内容

地域資源や地元の 取り組み体験

- 観光果樹園体験、産直施設、観光施設訪問など
- 農家民宿への宿泊
- 250年の歴史のある甲州ブドウとワイン造り視察体験

観光果樹園組織や 産直、観光関係者 等との交流

- 産直めぐりでの情報収集、現地研修
- 地元農業者、観光関係者との交流
- 地元の研修会等への参加

地域資源の調査活動

- 慶応義塾先端生命科学研究所での実験・研修
- 観光果樹園、産直めぐり悉皆調査
- 宝谷地域おこし協力隊員との協働調査
- 行政、観光関係者へのヒアリング

観光果樹園を中心とする 地域振興方策の検討

- フルーツランド計画策定ワークショップへの参加
- 鶴岡ツーリズム連携会議等への参加
- 果樹振興による地域振興方策の提案

東京大学 × 山形県高畠町
2019年度フィールドスタディ型政策協働プログラム

01 まちを知る

高畠町の町内見学、農家訪問、企業訪問・工場見学 など

02 自分を知る

町内のヒト、モノ、コトに触れ、自分の気持ちを探ります
仲間たちとの協働体験から、地域のデザインを学びます

03 未来を描く

「産地 × 企業商品」の効果的なプロモーション戦略を立案
「たかはたブランド」の認知度向上のための対策を考案

04 宣言する

高畠町の学生(小中高)に向け、戦略をプレゼンテーション
高畠町内の食品加工企業、商工会、観光団体に向けにプレゼンテーション

「03 未来を描く」で取り組む課題

「企業商品 × 産地」の新たなプロモーション戦略立案

高畠町は全国に先駆けて有機農業に取り組み、食の安全性をこれまで守ってきた。また、山形県の中でも食品加工企業が出産している地域で質の高い食材が多い。

その地域ブランディングの施策の一つに、「たかはたブランド」の取り組みがある。これまでの取り組みは、町内企業の製造した商品を町が認証する形式で、首都圏や仙台駅などでの物産イベント中心のプロモーションになっているが、高畠町の「世界観」がうまく消費者へ伝わっていない。

物産イベント中心の観光プロモーションから、地域の特性を観光資源として提供する時代になり、町のブランディングのための新たなプロモーション戦略を立案してほしい。

「たかはたブランド」町内の認知度を上げる

全国に誇れる農産物や食品加工商品があるが、町民はそのこだわりを知らないことが多い。「たかはたブランド」という言葉もほとんど知られていないのが現状。自分の町に誇り、愛着がうまれるような取り組みを考えてほしい。

東京大学 × 山形県高畠町 2019年度フィールドスタディ型政策協働プログラム

実施概要

実施月 (滞在日数)	プログラム	
11月中 (1週間程度)	まちを知る 自分を知る 未来を描く①	町の歴史や事業、商店街などを巡る 各分野のキーマンと会う 有機農業の農業団体、農業者を訪問 町内の企業を訪問し、工場見学など実施 滞在中、インプットした情報をまとめ、戦略立案につなげる ため、若手役場職員をファシリテーター役にワークショップ を開催
一定程度の期間	未来を描く②	大学へ戻り、地方に活かせるプロモーション戦略の情報 収集、分析、企画立案等を行う
実施月は未定 2～3日程度	宣言する	町内の学生を対象にした報告会を実施。 町内農家、企業、商工会、観光団体等を対象にした報告 会も実施。 実施後、本事業関係者とのフォローアップワークを開催

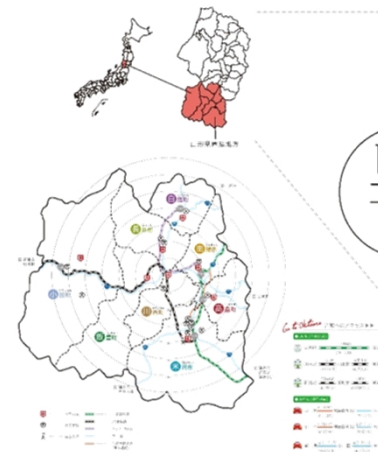
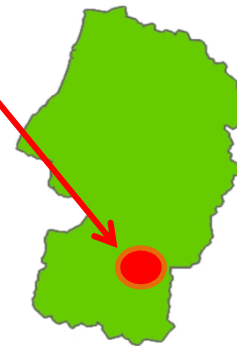
東京大学 × 山形県高畠町 山形県置賜地域 高畠町の情報

山形県置賜地域

市町名	人口
米沢市	85,953
長井市	27,757
南陽市	32,285
高畠町	23,882
川西町	15,751
白鷹町	14,175
飯豊町	7,304
小国町	7,868
合計	214,975


アクセス

- ◆【鉄道】 東京駅～高畠駅（山形新幹線）
所要時間 2時間15分
※高畠駅にも新幹線停まります！
- ◆【高速バス】 東京～米沢
所要時間 約5時間
- ◆【自動車】
川口JCT～米沢中央ICまで 約300km
所要時間 約3時間30分



高島の食を食べながら



A wide-angle photograph of a lush green rice field stretching towards a distant village under a bright, hazy sky. The sun is positioned in the upper left quadrant, creating a soft glow. The text "この地の未来を共に描きましょう" is overlaid in the center of the image.

この地の未来を共に描きましょう

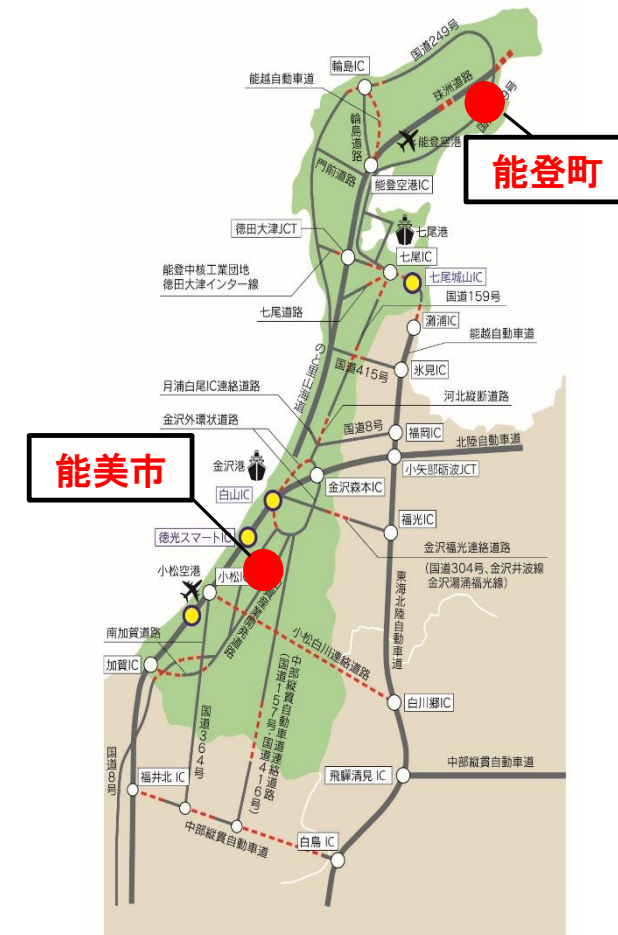
石川県

フィールドスタディ型政策協働プログラム
オリエンテーション

東大生と共に取り組む政策プログラム(全体概要)

石川県内の下記地域に約2週間～3週間(8月下旬～9月中旬)滞在し、能登町・能美市での現地活動を通じ、それぞれの課題解決策を提案していただきます。
(具体的なスケジュールや役割分担は、参加人数や学生の希望を踏まえて決定します)

活動地域	活動内容	活動期間
能登町	<p>持続可能な能登の里山集落づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の取組(共同田での作業等)への参加や、住民へのヒアリングを通じて、能登の里山集落が持続できる仕組みの提案を行う。 	うち2～3週間程度
能美市	<p>中山間地域における地域資源の国造ゆず等農産物を活かした地域内外在住者の縁づくり推進に係る具体的施策の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 特産農産物(国造ゆず)の産地を未来に継承していくための具体的な施策の提案を行う。 	うち2～3週間程度



MISSION 持続可能な能登の里山集落づくり【石川県能登町】

【活動地域】

世界農業遺産
「能登の里山里海」

◆能登町山口集落

- ・人口:103人(37世帯)
- ・高齢化率:46.6%
(2015国調)
- ・16haの田園が広がる
中山間地域

【活動スケジュール(案)】

6月	顔合わせ(東京)、事前調査(WEB等)
8~9月	現地事前調査・現地奔走(長期)(3週間程度)
10月~	学内奔走
11月	現地活動(短期)
2月	地域住民への成果報告会(能登)

「**耕す**=文化(アイデンティティ)」である能登の里山暮らし。それを守り、次世代につなぐため取り組んできた山口集落。10年間、耕作放棄地が出ないように**地域全世帯で管理**する「**共同田**」を始め、そこに**地域住民の出番と居場所**をつくってきた。

その結果、集落には、人が集まり、行事が生まれ、Uターンする家族が出てくるよい循環が生まれてきた。

ところが、今後、人口減少と高齢化の進行により、『**共同田だけでは集落(アイデンティティ)を守ることはできない…。が、答えがわからない…。**』集落全体で、本気で取り組んできたから強く感じる危機感。

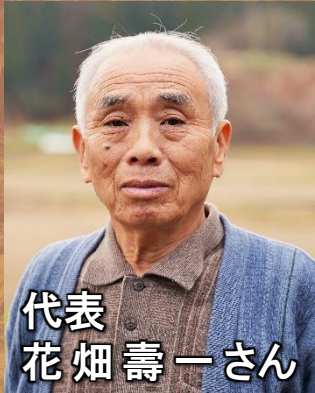
新たな仕組み「共同田×〇〇」が必要ではないか。ここから、この**MISSION**が生まれた。

数字上ではどうしようもないかもしれない。しかし、山口集落には**数字を超えるポテンシャル**があるはず。それが何か。山口集落は、**本気で挑戦する仲間**を待っています。

■ 想定される現地活動内容

- ・ 集落へのヒアリングやWSの開催(過去・現在・未来、共同田等)
- ・ 里山体験(祭礼・田作業・収穫祭・山作業への参加)
- ・ 東京交流団体行事への参加
- ・ 道筋提案に向けたプロトタイプの実践
- ・ 道筋提案

MISSION 持続可能な能登の里山集落づくり【石川県能登町】



代表
花畑 壽一さん

山口集落は耕すことが文化。時代が変化しても変わらない。田んぼから集落の会話が生まれる。ここから田んぼがなくなるのは、商店街から店がなくなるのと同じ。店のない商店街に人は来ないでしょう。だから、田んぼを守り、つないでいくと決めた。

共同田で結果が出てきたが、時代の変化のスピードが早く、これからはそれだけでは持続できない。「共同田×〇〇」の新しい仕組みをつくり、集落を守り、元気にしていきたい。

【山口集落の活動紹介】

2007年、離農者をきっかけに集落全世帯で管理する「共同田」を始める。これをきっかけに、住民の出番と居場所づくりにつなげ、さらに地域の農耕文化の復活と継承、地域資源の活用(海洋深層水の散布・竹チップによる堆肥等)により共同田の米のブランディングを図る。他方で、集落外への情報発信に加えて、江戸時代にゆかりのあった東京小石川とも交流し、ファン関係人口の拡大を図っている。



あえのこと
ユネスコ無形文化遺産



「木郎米」
@東京小石川マルシェ



8/18夏まつり



共同田 稲架たて・稲刈り



【体験メニュー】

世界農業遺産「能登の里山里海」を知る体験を準備。里山体験に加えて、里海体験(スノーケリング・釣り等)も準備しています。

【宿泊場所】

能登町内の空き家借上げ・宿泊施設を利用(2017・2018FSで利用)

【サポート】

2017・2018FSメンバーから活動へのアドバイス

2018FS 活動blog →



MISSION 持続可能な能登の里山集落づくり【石川県能登町】

【町の目標】 ※人口ビジョンで設定

2030年、若者が集まる能登町になる(20~30代転入超過)

【背景】 ✓能登には**大学がなく**、高校卒業後の転出大

20代後半に戻ってくる流れがあったが小さくなり、転出超過になることも

✓高齢化率が50%を超え、人口構造の若返りが必要

【目標達成に向けた仮説】

町民、事業所、行政が**主体性を持って**まちづくりを行っている

↑
大学生、町外の人たちも加わる

能登町 大学と地域が連携 → 地域課題の解決と学びの仕組みづくりに取り組む

里山エリア 能登町山口地区 人口103人 65歳以上 46.6%(2015国調)

◆地域の誇り・アイデンティティを守り、つなぐために始めた集落営農活動！ 将来、持続できないかも...

✓『「耕す」=「文化」(アイデンティティ)』であり、離農者をきっかけに集落全体で稲作する「共同田」を始め、それが地域の人たちの出番と居場所づくりにもなり、家族でのUターン者も出てきて、地域外から人が集まるようになってきた。

ところが、今後、人口減少と高齢化の進行により、「共同田」だけでは、守りつなぐことができない...

→新しい仕組み「共同田×〇〇」が必要。この課題解決に向けた道筋提案を実践

里海エリア 能登町小木地区 人口2,275人 65歳以上41.8%(2015国調)

◆日本有数のイカの水揚げを誇るが漁業の衰退とともに地域の誇り・アイデンティティが失われつつある...

2017
2018
地域の人たちの
チャレンジと成功体験をつくる
出番と居場所づくりを实践！

✓「小さなチャレンジが、地域の成功体験へ」

→おばあちゃんたちと「消えてしまうイカの郷土料理の商品化を目指した」クラウドファンディング実施

✓「地域の人たちが輝く舞台づくり」

→未来を創る若者に絞り(小学生と英語で町をPR、高校生と一緒にイベント企画)実践しながら、舞台づくりを提案

2019

◆横展開
2年間の里海から
里山へ

●課題

中山間地域における
地域資源の国造ゆず等農産物を活かした地域内外在住者の
縁づくり推進に係る具体的施策の提案



●現場で必要とされていること

人口減少対策として、交流人口・関係人口を増大させる地域の豊かな暮らしづくり・元気づくり、地域経済の活性化を図る



地域資源を活かした縁づくり推進に係る具体的施策が必要

●学生と貴学に期待したいこと

日本の地方にある特産農産物の小規模産地を未来に承継していくために、単なる農業というビジネス面だけからの提案ではなく、

「CSA～Community Supported Agriculture」(地域が支える農業)
「ASC～Agriculture Supported Community」(農業が支える地域)
(生産者と消費者が相互に支え合う仕組みで、欧米を中心に世界的に拡がりを見せている)の視点で、その農産物を取り巻く環境・体制を含めた非営利な面の価値も含め、モノだけでなくコト、そしてヒトにクローズアップした具体的施策の提案を期待。積極性ある学生を希望

●最終的に求めたいこと

生産者・地域・行政等関係者が次年度以降に行動できる課題解決提案内容



●活動地域概要

「能美市(のみし)国造(こくぞう)地区」

- 中山間地域にあり、古くからの小規模7集落と平成に入り造成された大規模住宅団地からなる地域
 - ・地区全体・・・微減
 - ・古くからの7集落: 人口減少・少子高齢化進行
 - ・大規模住宅団地: 人口増加
- 高齢により農業をリタイヤする市民が増加(特産物「国造ゆず」も2019年度新たに2名がリタイヤ、後継者不足)



●2018年度FSプログラム成果

課題「国造ゆず産地を未来に継承していくための持続可能な生産・消費体制等の構築」で2名が活動

- ① ゆずの花言葉のひとつである「健康美」をテーマにした取り組みによる地域内在住者間の縁づくりによる体制構築の可能性を示唆
- ② 地域外在住者が国造ゆずの農作業等を通じて高齢農業者や地域内在住者と一定期間交流することによる縁づくりによる交流人口・関係人口増加での体制構築の可能性を示唆

●活動スケジュール提案

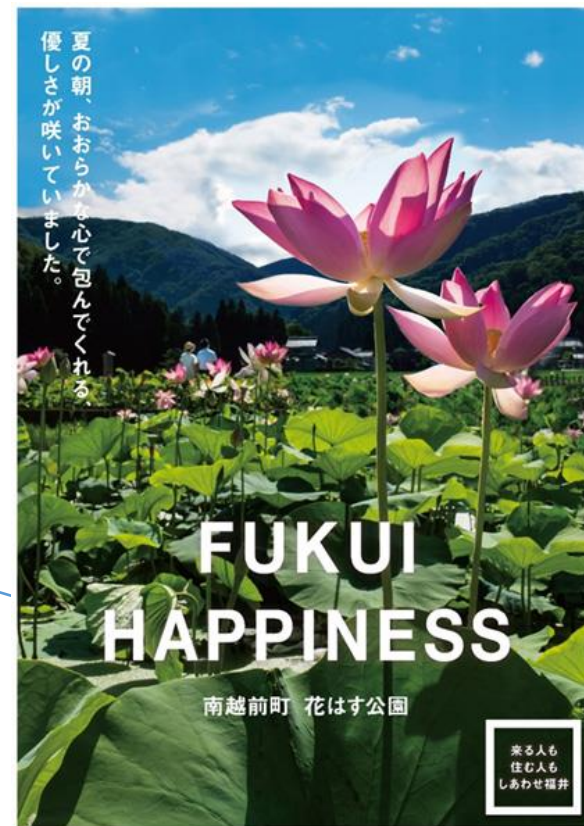
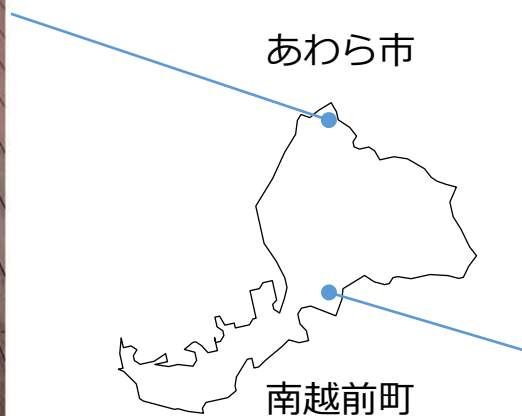
6月～7月	・顔合わせ、事前調査
8月～9月	・現地活動①(2～3週間) 地域の人たちと出会い、つながり、現状把握
10月～12月	・企画立案 ・現地活動②(短期、11月上旬) 企画立案したことを試行することも可能
2月～3月	・現地での成果報告会
随時	電話、電子メール等でのやりとり



あらかじめ、
幸せだったらいいな。

幸せ度
いちばん
福井県

日本で一番しあわせな福井で 一生の思い出に残る夏を



知る人ぞ知る 実はハイ・ポテンシャルな福井

都道府県魅力度ランキング 39位 だけど・・・

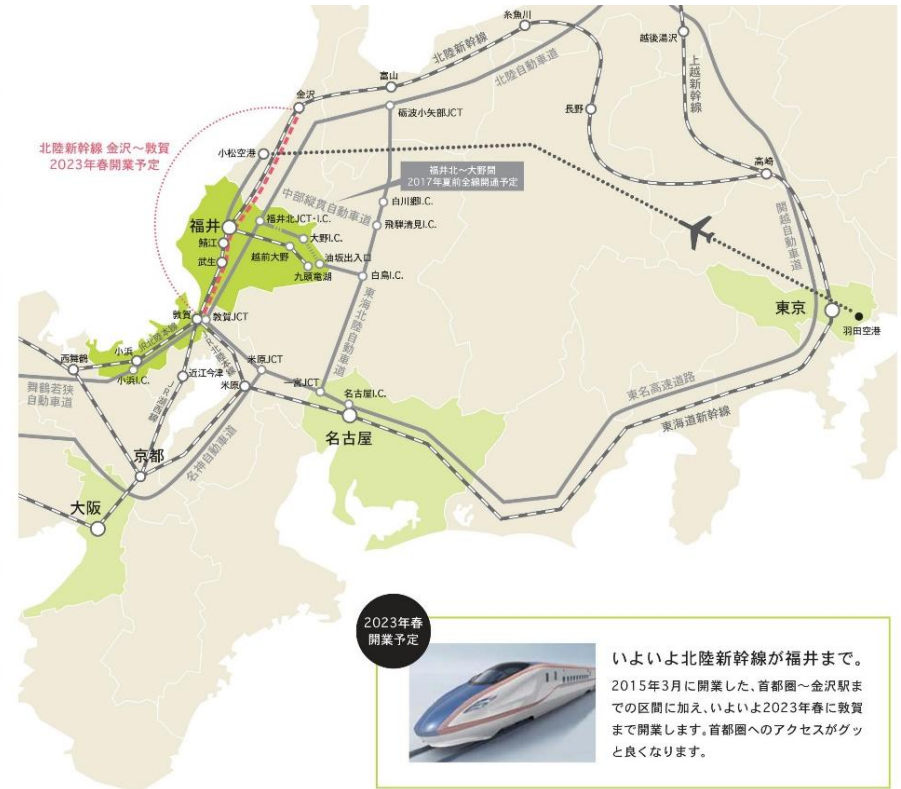
全47都道府県
幸福度ランキング
3回連続日本一

仕事分野 **1位** (雇用が安定、働く女性も日本一)
教育分野 **1位** (子供から大人まで学び続ける環境が充実)

北陸新幹線
2023年春 **福井延伸**

東京から

福井 **2:50** **35分短縮** **3:25**



それでも、福井の人口は2000年の82.9万人をピークに減少傾向
2040年には63.3万人まで減少する見込み (1900(明治33)年の人口と同じ)
地域課題の解決、関係人口の創出にみなさんの発想力や企画力を発揮しませんか
そして福井を**第2のふるさと**に！

休校小学校を活用した地域づくり

あわら市

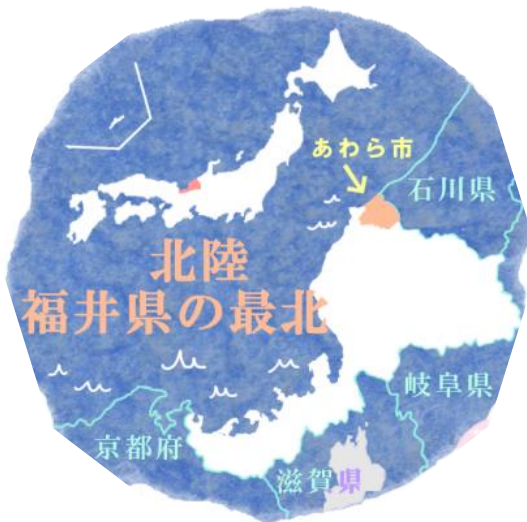
福井県の最北端(嶺北地域)

石川県加賀市に隣接

人口：約28,300人

世帯数：約1万世帯

観光客：約182万人(年間)



あわら温泉

「関西の奥座敷」と呼ばれる
県内随一の温泉街



豊かな自然・四季折々の特産物 歴史のあるまち



【活動地区】

波松地区(波松小学校)

- 人口：約620名・約200世帯
畑作・果樹栽培が盛ん。
梨・メロン・さつまいも等豊かな農作物がとれる。
日本海に面し、海岸では観光地引網が行われる。
また、年間を通して釣り客やサーファーが訪れる自然豊かな地域。



吉崎地区(吉崎小学校)

- 人口：約370名・約150世帯
石川県との県境に位置、浄土真宗中興の祖・蓮如上人が1471年に建立した吉崎御坊を中心に寺内町として栄えた歴史あるまち。
毎年4月後半に行われる「蓮如忌」は500年続く伝統行事。
全国から約11万人の参拝者が訪れる。



【現状と課題】

- 波松小学校と吉崎小学校は、少子化の進行により児童数が減少し、平成28年3月に休校した。
休校を機に地域住民の交流が減少し、地元に対する愛着が希薄になり、今後ますます地域の活力衰退・少子高齢化・人口減少が加速していくことが危惧される。
- 現在、地域住民と行政とで、地域の課題解決と活性化拠点としての小学校の活用を検討している。

【活動内容】

現地調査・ヒアリング

実態調査と課題の把握

休校舎やエリア内の調査
地域住民との対話を通して
地域の実態を把握する

協働活動

まちづくり団体との協働

小学校を拠点にまちづく
りを行う地域団体の活動
への参加・協力

実際の地域活動・まちづ
くり活動を体感する

提言・ワークショップ

休校舎を活用した
ワークショップの開催

地域の課題解決や休校舎を活用
した地域活性化の施策提言

休校舎を活用した 地域活性化事業に反映



【受け入れ体制】

まちづくり団体(波松地区・吉崎地区)・地域おこし協力隊がサポート

【宿泊予定先】

あわら温泉の旅館、福井県立芦原青年の家、波松小学校、吉崎小学校等

【活動期間】

現地活動：8月20日～9月20日のうち2週間～3週間(応相談)

現地報告会：2月

【皆さんに期待すること】

小学校は住民にとって身近な場所で、愛され親しまれてきた地域のシンボルであり、休校となっても地域での持続的な活用が望めます。

皆さんの若く新しい視点で、休校舎の新しい活用策や地域課題解決のためのアイデアを提案してください！
私たちと一緒に地域を元気にしましょう！

福井県の真ん中にある

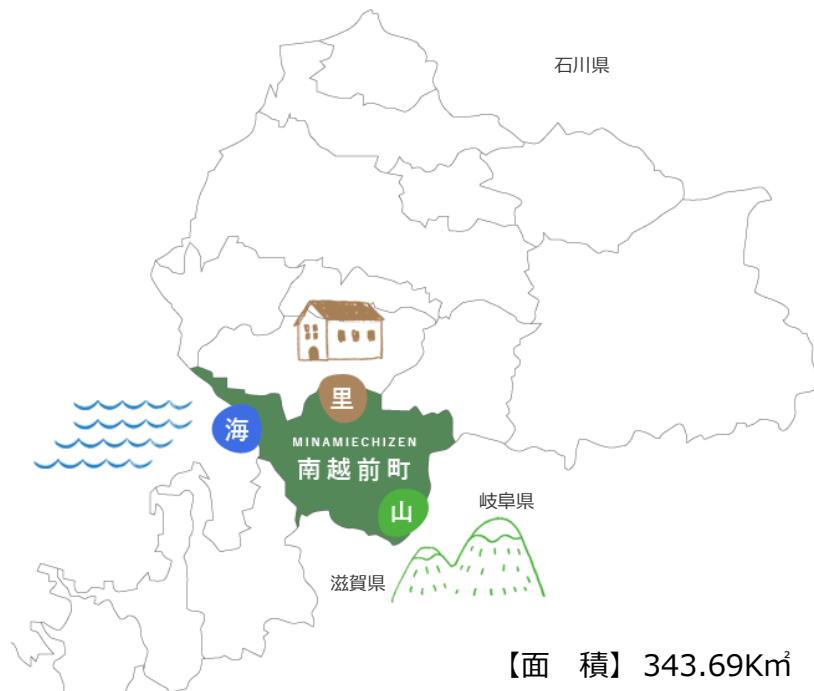
海と緑と歴史のまち。

福井県のほぼ中央に位置し、北は福井平野につながり、東は岐阜県、南は滋賀県、西は日本海に接しています。

町のほぼ中央に日野川が流れ、上流は豊かな森林に恵まれた山々、下流は整備された田園地帯が広がっています。

春夏秋冬の装いを変化させ、様々な表情を見せる南越前町は四季を通じて自然の豊かさを実現できるまちです。

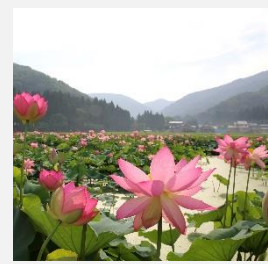
また、「今庄宿」や「河野北前船主通り」など多彩な歴史資源に恵まれています。



【面積】 343.69Km²

【人口】 10,799人

【世帯数】 3,348世帯



関係人口を迎えるしなやかな地域づくり

～流動創生事業における地域住民の視点を踏まえた発展的提案～

南越前町では、古くから交通・交易の要衝として人の往来を支えてきた歴史を背景に、「人の移動」や「多拠点」を切り口とし、町外の方が気軽に地域の暮らしや文化に触れる機会を設け、地域に関わる方の増加に取り組んでいます。

この流動創生事業をさらに発展させ、都市と地方の多様な関わりを創出する場として、町内外から認知され、多彩な交流が生まれる地域づくりを目指します。

活動地域	南越前町宅良地区を中心に町内全域
活動内容	<ul style="list-style-type: none">・流動創生事業への参加、地域おこし協力隊とともに地域活動を実施・地域住民等へのヒアリング調査、関連事業視察 等 →現状を把握できるような場を設置 課題・成果を整理し、発展的な展開について提案
目標	流動創生事業の評価及び発展的な提案
活動期間	<ul style="list-style-type: none">・8月中旬の4日間 流動創生事業への参加 (農作業手伝い、盆踊り等の地域のイベント)・9月上旬の1週間 地域住民等関係者へのヒアリング調査、意見交換 関連事業視察、地域おこし協力隊活動参加・2月 現地報告会 ※時期や日数については応相談

流動創生



長野県

これからの公共空間のあり方に関する実践研究
— 「[信州・学び創造ラボ](#)」を起点にした多様なコミュニティの創出 —



しあわせ信州

キーワード

とも
「共に」



しあわせ信州

信州・学び創造ラボ

共知・共創の場—とびきり心地よく刺激的なサードプレイスを創ろう！

新たな社会的価値を生み出す

実験室 として、

2019年4月

県立長野図書館3階に

オープンしました！



県立長野図書館（長野県長野市若里1-1-4）



あわせ信州

ものづくりラボ

3Dプリンタ/レーザーカッター/
紫外線プリンタ/大判ロールプリンタ/
スキャナ・PC/道具置き場/
展示ショーケース

書棚

ブース席

カラーニング・ワーキングスペース

マイクロ・ライブラリー(展示スペース)/
ホワイトボード/可動書架ブース

マグネットポイント

キッチン/ベンチ/カウンター席/
デジタルサイネージ(WebLinked)

信州情報コーナー

サイネージシステム/
平置きタッチディスプレイ/
棚(面だし展示)

カウンター
ひとり席

ソファ席

畳スペース

信州・学び創造ラボ

共知・共創の場—とびまわり心地よく刺激的なサードプレイスを創ろう!

完成イメージ図

ワークショップスペース

大壁面 / プロジェクション



「信州・学び創造ラボ」のコンセプト

コンセプト

「共知・共創（ともに知り、ともに創る）」

行政が提供するサービスを消費するだけの場でなく、人と人がつながり、共に学び考え「新しい社会的価値」を生み出していく場

政策的 位置付け

- ・ 長野県総合5ヶ年計画「しあわせ信州創造プラン2.0～学びと自治の力で拓く新時代～」
 - ▶ 生涯を通じて学べる環境の整備
- ・ 第3次長野県教育振興基本計画「『学び』の力で未来を拓き、夢を実現する人づくり」
 - ▶ 共に学び合い、共に価値を創る『みんなの学び』の推進



みなさんと共に挑戦したいこと

ミッション

新しい公共空間の運営モデルの提案を通して、
これからの「**公共(Public)のあり方**」に
一石を投じる！

多様な人々をつなぎ

コミュニティ

をつくる

地域の人々の

多様性・創造性を

エンパワーする

みなさんに取り組んでいただきたいこと

今回の ゴール

- ① 多様な属性・視点を持つ人々がつながる
コミュニティが生まれる仕組みの提案
- ② 利用者の**学びあいを促すプログラムの開発**



例えば、こんな方向から考えてみては？

- ✓ 空間と行動のデザイン (きっかけを生む“タッチポイント”のデザイン)
- ✓ 情報流通・共有の仕掛けづくり
- ✓ 人と人とのつながりを生むインセンティブデザイン など、

興味関心のある切り口から、自由に取り組めます！

スケジュール



オリエンテーション

ワークショップ、学内での事前調査

県立長野図書館主催アンカンファレンスに参加

長野県内でのフィールドワーク（メイン）

運営方法の検討

ワークショップ、学内での事後調査

長野県内での追加フィールドワーク（必要に応じて）

「信州・学び創造ラボ」で報告イベント開催

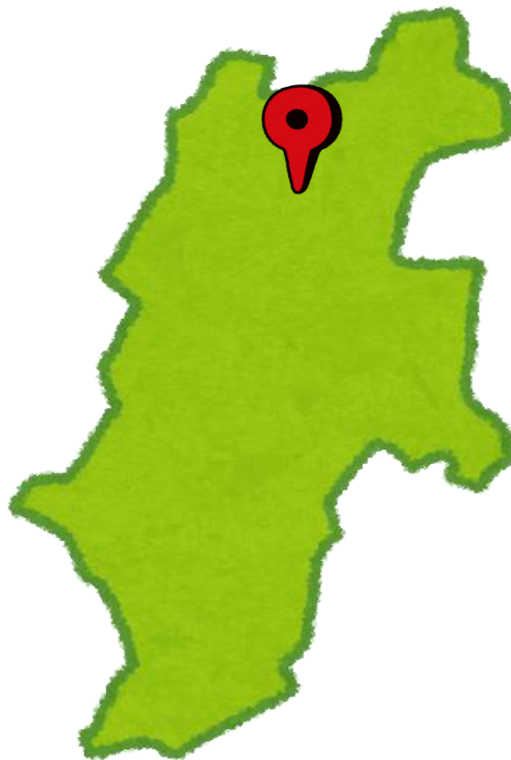
みなさんの提案をお披露目！

[フィールド]

信州・学び創造ラボを起点に、
県内各地 自由に！



信州・学び創造ラボ
共知・共創の場—とびきり心地よく刺激的なサードプレイスを創ろう！



[メンター]

- ・図書館職員をはじめとする県職員
- ・地域コーディネーター



[アプローチ対象]

様々な活動を展開する
個人、企業、公立組織など



実験する**場所**がある
受け入れる**まち**がある
一緒に取り組む**人**がいる

これからの新しい公共空間モデルを
信州で、共に創ってみませんか



フィールドスタディ型政策協働プログラム
オリエンテーション
2019年4月16日・17日



熊野古道伊勢路(馬越峠)

プログラム①

漁村から考えるパーマカルチャー

漁村から考えるパーマカルチャー

【フィールド】

尾鷲市三木浦町(みきうらちょう)

- 尾鷲市南部の賀田(かた)湾に面した人口約550人の漁村
- 真鯛の養殖や伊勢海老漁が盛んで、古くから遠洋漁業の基地としても栄えた
- 平成29年6月、唯一の喫茶店が閉店したが、平成30年3月に着任した地域おこし協力隊員により、喫茶店「マドロス」がオープン。地元の人たちの憩いの場となっている
- 同年8月には、1泊から利用できる移住体験住宅「三木浦ソワイ」もオープン



尾鷲市三木浦町

【現状と課題】

- 過疎高齢化や第一次産業の衰退により、人口減少が進み、漁村の活気が失われつつある
- 一方、漁村には、豊かな自然や長年使われていない田畑、住まいに加えて、これまで培われてきた自然と共に暮らす文化や知恵が多く残っている
- 「自然と調和した暮らし＝不便」ではなく、欧米や日本の都市部では、こうした暮らし方を実践する人びとが増えてきている



漁村暮らしの宿「三木浦ソワイ」

- ◆ 自然と調和した暮らし(パーマカルチャー)を実践するフィールドとして三木浦町を発信することで、そうした暮らしを求めている都市部の人を地域内に流入させるきっかけとしたい！

漁村から考えるパーマカルチャー

【具体的なプログラム】

<活動期間: 3週間程度(応相談)>

漁村でのパーマカルチャーの普及やフィールドづくり

- 「パーマカルチャー」とは、オーストラリア発祥のデザイン体系であり、「自然と調和した暮らし」のことを指す
- 三木浦町にある自然を保全しながら、こうした暮らしを求めている人を受け入れるためのフィールドを作るには、どのような環境整備が必要か？
- 里山では事例のあるパーマカルチャーを漁村に取り入れるためには？
- 漁村での交流人口の増加につなげるためには何が必要か など



【東大生に期待したいこと】

漁村でのパーマカルチャーの実践・普及のほか、パーマカルチャーが漁村の自然環境や文化の継承・存続・活性化に寄与する可能性について検討してください！！



三木浦町は、目の前が海！
海水浴はもちろん、有名なダイビングスポットでもあります。
東京の喧騒から離れて、漁村での暮らしを体験してみませんか？
尾鷲は東大生の力を必要としています！（毎年来てもらっています！）



地域おこし協力隊 三鬼さん

プログラム②

限界集落における地域農業の再生

限界集落における地域農業の再生

【フィールド】

南伊勢町道行竈(みちゆくがま)地区

- 南伊勢町は、人口12,000人 三重県一の漁獲量を誇る町だが、人口減少率(△2.8%)、高齢化率(50.3%)がともに三重県ワースト1
- 源平合戦のころ、平家の落人が入植したものの、先住者によって既に漁業権が握られていたため、塩竈を造り塩を焼き、わずかな耕地を開いて自活したという「平家落人伝説」が伝わる「南島八ヶ竈」(なんとうはっかかま)の一つ
- 集落の人口は、わずか38人



伊勢志摩国立公園内の鵜倉園地

【現状と課題】

- 小さな集落にある田んぼは、日当たりが良い、滝が2つあって水が豊富、圃場整備されているなどの条件が整っているものの、人口減少及び高齢化に伴い、耕作放棄地が増加
- 地域住民が中心となって、栽培したお米で日本酒を造るプロジェクトをきっかけとした復田の動きが出てきている
- 日本酒造りプロジェクトについては、地元の皇學館大学との連携が生まれている



酒米を作る予定の田んぼ

- ◆ **日本酒づくりプロジェクトを含めて、さまざまな観点から地域農業の再生について考え、地域の土地利用、竈方文化、ICT活用など一体的なシステムのモデルを構築したい！**

限界集落における地域農業の再生

【具体的なプログラム】

<活動期間: 3週間程度(応相談)>

道行竈地区の土地利用、文化、景観等を含めた農業再生モデルの構築

- 日本酒造りだけでなく、限界集落における農業の再生に必要な収益モデルを構築するためには何が必要？
- 竈方文化や地域の土地利用、農村景観などを融合させた地域モデルが構築できないか？
- 限界集落ならではのICTの活用は考えられないか？
- クラウドファンディングを取り入れたいが具体的な手法は？
- 次世代に継承できる仕組みづくりとは？ など



【東大生に期待したいこと】

地域資源の洗い出しや地域住民との話し合いなどのほか、実際の農作業や酒造りなどを通じて、地域農業の再生についての道筋提案を検討してください！！



東京では考えられないほどのきれいな海で、つぼ網で魚をとって、その魚を食べながら地域の人たちと交流しましょう！
過疎の最先端の地で、みなさんの参加をお待ちしています！



たいみー

鳥取県

フィールドスタディ型政策協働プログラム
オリエンテーション
2019年4月16日、17日

取組課題

鳥取県湯梨浜町版生涯活躍のまちの形成に向け

生涯活躍のまちづくりの提案とアクティブシニアをはじめとした多世代を呼び込むための地域の魅力の情報発信



<背景>

- 人口減少が進む湯梨浜町では、新たな人の流れを生み出す手段のひとつとして「生涯活躍のまち」の取組を進めている。

<生涯活躍のまち構想の概要>

2か所の温泉があり、グラウンド・ゴルフ発祥の地やノルディックウォークの認定コースなど生涯スポーツの環境があるため、アクティブシニアが元気に活躍し、楽しみながら健康に生活できる素地がある。

【基本的考え方】

都市圏をはじめとする地域の移住希望高齢者等に対し、その方の経験や人脈を活かせる活躍できる場を提供するとともに、必要な医療・介護を継続的に受けられる体制を整備することにより、湯梨浜町への移住を促進し、地域の課題を開発するための人材の誘致につなげる。これにより、移住者だけでなく、地元住民に暮らしやすいまちづくりを進める。

生涯活躍のまち実現に向けた重点課題のイメージ



- 拠点整備が進む中、拠点や地域の担い手となる都市圏に住むアクティブシニアをはじめとした多世代の移住定住者を確保することが課題となっている。

生涯活躍のまちのイメージ (平成28年度の基本計画をもとに更新)

- アクティブ・シニアから晩年のシニアまで、充実した生活と安心して暮らせる町をつくる。(健康寿命+地域への貢献)
- 地域が抱える課題の解決へとつながる人材の誘致
- 現在お住まいの町民の方々も利益共有できる環境づくり。



<活動内容>

以下の活動等により、都市圏に住むアクティブシニアをはじめとした多世代の移住定住希望者をひきつける魅力的な地域づくりと情報発信のための政策を提案。

- 地域外からのから見たときにどんなところが魅力的か、どんなところを改善していく必要があるかなど、学生の視点でニーズ把握・分析
- 都市圏等に住む多世代に対して、湯梨浜町の魅力等を効率よく発信・受信する手法を検討
- 魅力的な地域のコミュニティ拠点の機能や運営方法、交流促進の検討



湯梨浜町について詳しくはこちらをチェック>>><http://yurihama-machidukuri.net/>

ゆうゆう、ゆりはま 湯梨浜の暮らし

天女のふる里

鳥取県 湯梨浜町

ゆりりん



湯梨浜町ってどんな町？

鳥取県のほぼ中央

●人口 16,550人
(平成27国勢調査)

平成16年10月に羽合町・東郷町・泊村が合併し誕生

●就業人口 8,555人
内訳 (H27国勢調査)

第一次産業 (農業・漁業等)

1,258人 (15%)

第二次産業 (建設業・製造業等)

1,786人 (21%)

第三次産業 (小売・各種サービス等)

5,491人 (64%)

●特産品

梨・イチゴ・メロン・ブドウ・
スイカ・シジミ・岩ガキ など



湯梨浜町ってどんな町？



町の真ん中に位置する「東郷湖」のほとりに「はわい温泉」、「東郷温泉」の二つの温泉があります。

湖の周りには、県立の都市公園「東郷湖羽合臨海公園」があり、癒しの空間と美しい景観を提供しています。また、七福神にちなんだ7カ所の足湯もあります。

みずみずしく上品な甘さと酸味が絶品の二十世紀梨は、鳥取県を代表する秋が旬のフルーツ。

湯梨浜町は、日本一の二十世紀梨の産地で、気候や風土に恵まれ、高い評価を得ています。



白い砂、青い海、美しさひとときのロケーションが自慢。岩ガキ、ヒラメなど海の幸も豊富です。

快水浴場百選にも選ばれた「石脇海水浴場」の近くには、グラウンド・ゴルフの聖地「潮風の丘とまり」もあります。

湯梨浜町の多彩なイベント

◆グラウンド・ゴルフ発祥地大会



◆グラウンド・ゴルフ国際大会
YURIHAMA



◆ハワイアンフェスティバルハワイ
inゆりはま



◆ゆりはま天女ウォーク



◆全国ベテラン卓球ゆりはま東郷大会 ◆水郷祭



湯梨浜町の百選

◆快水浴場百選「石脇海水浴場」



◆平成の名水百選「宇野地藏ダキ」



◆にほんの里100選「別所・国信地区」



◆美しい日本のむら景観百選「東郷池」



美しい自然を楽しむこともできます



日常生活の楽しみ

◆ノルディックウオーク

両手にもった2本のポールをつけて歩く「ノルディックウオーク」。膝や腰への負担が少ない割に運動効果が高く、幅広い年代が気軽に楽しむことができることが魅力です。

東郷湖を巡るウォーキングコースは、全日本ノルディック・ウオーク連盟の公認コース第1号に認定。



日常生活の楽しみ

◆グラウンド・ゴルフ

湯梨浜町合併前の旧泊村で誕生したグラウンド・ゴルフ。簡単なルールと、誰でもどこでも気軽に楽しむことが特徴です。

このスポーツの聖地、日本海を望む風景と美しい芝の専用コースが魅力のグラウンドゴルフのふる里公園「潮風の丘とまり」。

ここでは、毎年全国大会、さらには国際大会が開催されるなど、多くの利用でにぎわっています。



ゆりりん



いろいろな楽しみが
生活の一部になっていきます。

日常生活の楽しみ

◆足湯・温泉スタンド

町内には7つの足湯と温泉スタンドがあります。



東京大学フィールドスタディ型
政策協働プログラム提案書

神話・自然景観を生かした
ナショナルパークツーリズムのメニュー化

島根県松江市

背景

現在日本政府は、2020年訪日外国人旅行者数を4000万人とする
「明日の日本を支える観光ビジョン」の施策に取り組んでいます。

この観光ビジョンの10の施策の一つとして、**国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化**を目指し、**まずは8箇所の国立公園で「国立公園ステップアッププログラム2020」を策定し、訪日外国人を惹きつける取り組み**を計画的、集中的に実施します。

National
Parks
of Japan



1. 「最大の魅力は自然そのもの」をコンセプトに非日常的な体験を世界の人々に提供する
2. 最高の自然環境をツーリズムに開放し、高品質高付加価値のインバウンド市場を創造する

大山隠岐国立公園満喫プロジェクトにおける重点地域



1. 隠岐地域



2. 島根半島東部地域



3. 島根半島西部地域

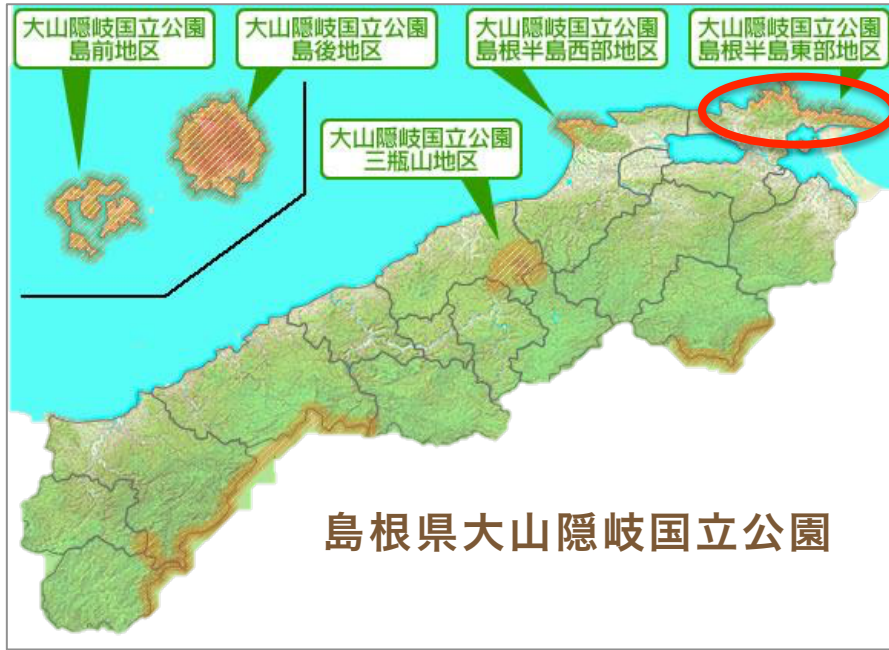


4. 三瓶山地域

島根県の概況



島根県のプロフィール



島根県は中国地方の日本海側である山陰地方の西部をなす県。県庁所在地は松江市。離島の隠岐の島、竹島は本県の領域に含まれる。

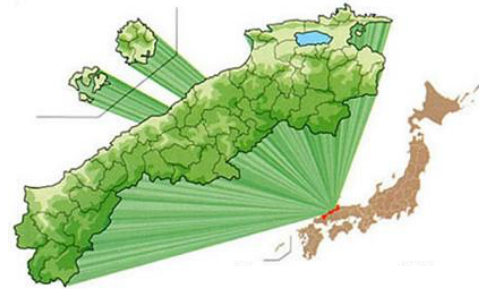
人口：679,626人（推計人口 2018年10月1日）

面積：6,708km²

市町村：県下8市5郡10町1村

特産：米、ぶどう、西条柿、牛肉、メロンなど

アクセス



飛行機

羽田空港

→出雲空港（85分）

鉄道・バス

（JR）東京駅

→JR松江駅（約6時間）

（バス）東京駅

→JR松江駅（約11時間）

トピック



「美肌県1位」

美肌偏差値78.64と2位秋田に10p以上
差をつけて3年ぶりに首位奪還！



松江市のプロフィール



『暮らしやすさ』日本一！

※経済産業省暮らしやすさを貨幣価値の置き換えて比較
島根県の東部に位置し、平成の大合併で1市7町1村が合併。山陰最大の人口を擁する中心都市。

平成24年4月 特例市に移行

平成30年4月 中核市に移行

平成30年12月 中枢中核都市に選定

人口 202,667人

(推計人口2018年10月1日)

面積 572.99km²

魅力的な観光スポット



ホーランエンヤ神事

2019年5月開催



松江水郷祭

例年夏開催



国宝松江城



塩見縄手

小泉八雲記念館・旧居



宍道湖

松江しんじ湖温泉



玉造温泉

美保関町

島根町の概況

神話と歴史の町、美保関町

- ・ (一社) 松江観光協会美保関町支部
- ・ 行政
- ・ 地域観光事業関係者
- ・ 地域住民
- ・ 民間企業



諸手船神事



美保関灯台



青柴垣神事



美保神社



満喫プロジェクト 島根半島東部協議会

それぞれの良さを持ち合い、
協議し魅力の「強化」
「連携」「発信」を行う



平成33年インバウンド旅行者20万人
宿泊者10万人



美しい海・色・景観を有する島根町

- ・ (一社) 松江観光協会島根町支部
- ・ 行政
- ・ 学者、有識者
- ・ 地域観光関係者
- ・ 民間企業



加賀の潜戸



多古の七つ穴



マリンスポーツ
キャンプ



祇園社神幸祭
(別名) ガッチ祭

観光分野の現状と課題

現状

- 「大山隠岐国立公園」の一部として、「国立公園満喫プロジェクト」に取り組む
- ジオツーリズムにおける体験型観光を目玉にマリンアクティビティへ取り組みを開始
- 美保神社の参拝者増加（年間47万人）
- 「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」として日本ジオパークにも認定されている
- 海産物を主とした、食文化を生かした観光振興
- 近隣大型港からツアー誘致

課題

- 少子高齢化による担い手不足
- 地域の宝を活かすビジネスモデルの検討
- ポテンシャルを活かしたツーリズムメニューの開発の遅れ
- 「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」として日本ジオパークにも認定されており学術的な研究が進んでいる一方、その成果の利用の方法が見出せてない
- インバウンド観光客の受け入れ環境の整備
- 施設・地域ぐるみのおもてなしの向上

「国立公園満喫プロジェクト」をインバウンドに対応する 島根半島の多彩な魅力のコンテンツの一つとして磨き上げる！

「美保関町」には由緒ある神社や神話に由来する神事が残り、「島根町」には美しい海・色・景観を有した観光名所が点在しています。そういった松江市「美保関町」「島根町」地域を中心とした自然景観・神話等の資源を活かした、持続可能で質の高いツーリズムメニューの検討・分析・開発を行う。

ストーリー

神話歴史などの由緒ある
ストーリーを国内外の子供から大人まで
様々な方に体験いただきます

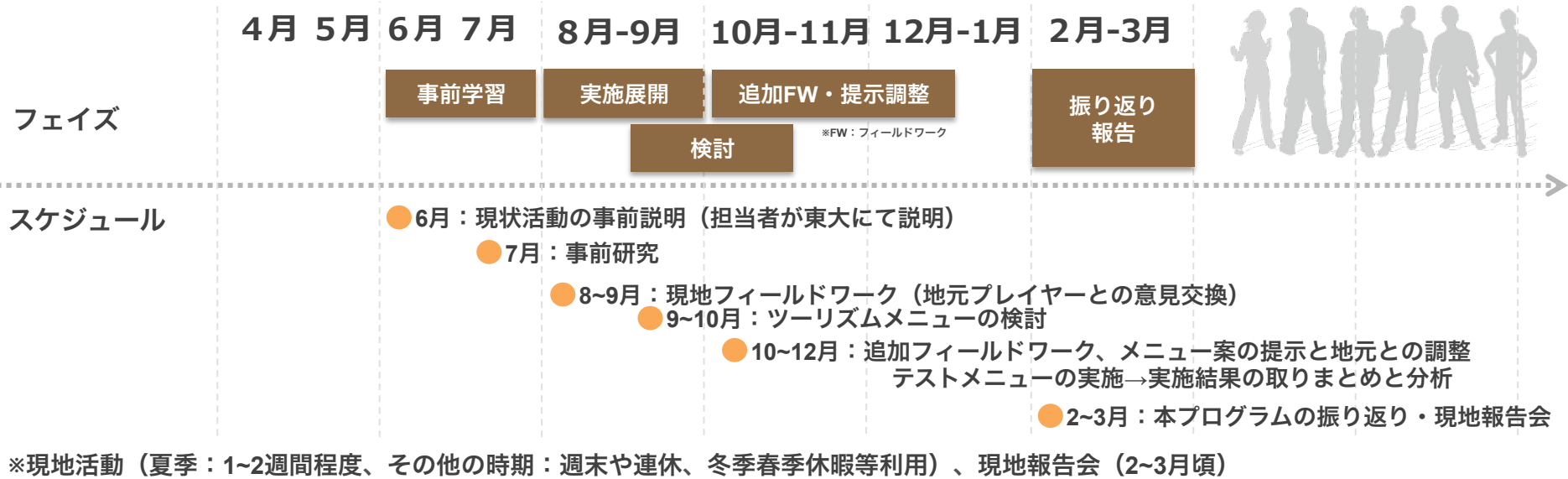
付加価値

ジオパークや自然の景観など
学術的にも価値の高いものを
体験いただきます

神話・自然景観を生かしたナショナルパークツーリズムのメニュー化

- | | |
|--------|--|
| 1.受入地域 | 松江市圏域（美保関町・島根町中心） |
| 2.受入期間 | 8月～9月、10月～12月※柔軟な対応が可能 |
| 3.人 数 | 2～4名 |
| 4.行政支援 | 現地活動を支援します
地域組織や住民、地域おこし協力隊との連携
交流会のセッティングその他施設等の案内や手配 |

スケジュール



フィールドワークプログラムの内容

1. 現状のツーリズムメニューの体験

現状提供しているシーカヤックなどのツーリズムメニューを五感で体験して頂き、提供事業者や地域の担い手と交流し、現状をインプットして頂く

2. 活用資源課題解決や新たな宝物の発見

地元島根大学ジオパークプロジェクトセンター等の知見や活動状況を学び、ツーリズム資源利用の課題や、新たな宝物を発見して頂く

3. 東京大学等での研究

大学内の研究・専門家への聞き取りや、図書館での文献調査等により提案メニューの素案をつくって頂く

4. テストメニューの実施

地元の意見を聞き、必要に応じて素案を修正し、関係者も楽しめるテストメニューを展開し、モニターから意見を収集して頂く



学生のみなさまへ

島根半島は神秘的な自然景観と神話が息づき、昔ながらの文化が伝承されている町です。

皆様に島根半島を訪れていただき新しい視点で一緒に課題に取り組んでいただけることを期待しております



KOCHI



高知県黒潮町

KUROSHIOTOWN

高知県黒潮町は、四国の西南に位置し、太平洋に面した、人口1万人あまりの町である。温暖な気候で、海・山・川の豊かな自然環境を有し、「ホエールウォッチング」「カツオのタタキ作り」「天日海塩作り」などの体験型観光と、農家・漁家での「民泊」など、地域とふれあう観光を展開して、自然環境を軸に地域資源を活かしたまちづくりに取り組んできた。

近年の少子化の進展に伴う教育旅行の伸び悩み、南海トラフ巨大地震における新たな津波想定（黒潮町に到来する大津波高34m）等の要因により、修学旅行のキャンセルや体験型観光での他市町村への宿泊流出の傾向が強まり、地域の賑わいが失われつつある。

SPORTTOURISUM

スポーツを通じた観光

観光戦略の練り直しを余儀なくされた黒潮町は、高知県が整備した「土佐西南大規模公園スポーツゾーン」の各施設を活用し、『温暖な気候と自然環境の中で行うスポーツ』を前面に押し出した誘客を促進することとした。

体育館、テニスコート、天然芝サッカー場、JFL公認人工芝グラウンド（JFLフットボールセンター）、野球場などを活用し、大会誘致、合宿誘致等に取り組んでいる。



活動目標

- 本町のスポーツツーリズムの課題の洗い出しと、その解決策を考える。
- 地域外からの視点での、課題等の指摘や新たな企画の提案。
- 同年代の若者の視点で見た、スポーツツーリズムへの要望などの提案。

活動地域・人数

- 高知県黒潮町・2名

スケジュール

- 2019年8～9月
 - ・ 現地（黒潮町内）での実情視察など。
 - ・ 地元関係者との意見交換や、スポーツツーリズム受入現場視察。
 - ・ 周辺市町村、関連事業者等との連携状況視察や関連団体との意見交換等。
- 2020年2～3月
 - ・ 黒潮町にて報告会

KOCHI KUROSIOTOWN



「スポーツを核にしたまちの賑わい創出」をニタリクジラと一緒に考える

高知県黒潮町について

黒潮町は高知県の西部に位置し、東を四万十町、西を四万十市に接し、高知市から約 100km、太平洋に向かって長く広がる地形を成し、東西約 18.4km、南北約 23.6km で南西部に太平洋（土佐湾）を望む、人口 1 万人余りの風光明媚な町です。

気候は温暖で、海・山・川の豊かな自然環境を有し、「ホエールウォッチング」「カツオのタタキ作り」「天日塩作り」といった体験型観光と、漁家・農家での「民泊」地域とふれあう観光を展開して、自然環境を軸に地域資源を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

その取り組みの中心の一つとなるのが NPO 砂浜美術館（館長・ニタリクジラ）です。

NPO 砂浜美術館について

「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」というコンセプトのもと、長さ 4 km の美しい砂浜を美術館にみたくて、四季折々のオリジナル企画を行ってきました。1989 年から始まり、今年 30 周年になります。2003 年に NPO 法人化。以後、砂浜に隣接した高知県立の公園施設の指定管理、施設内のスポーツ施設を活用したスポーツツーリズム、町の観光振興、ケーブルテレビ局の番組制作など、地域資源を活用した様々な取り組みを行っています。各事業を通じて、地域経済への寄与と、「砂浜美術館」という考え方を多くの人たちに伝えていきたいと思っています。

本プログラムについて

- ・黒潮町が新たに練り直した観光戦略の方針として、「スポーツを核としたまちづくり」を掲げており、スポーツというツールをきっかけに町内外を巻き込んだ取り組みを展開している。

- ・その取り組みの実施主体である、黒潮町や町内の NPO 砂浜美術館とともに具体的な方策等の立案に参画していただくプログラムとなっています。

- ・地域外からの視点で見た、地域内の住民では気がつきにくい課題等の指摘や新たな企画の提案や、同年代の若者の視点で見た、スポーツツーリズムへの要望などの提案をいただきます。

- ・黒潮町への滞在は、8月～9月くらいの間で、誘致した大会又は合宿など実際の対応状況も見ていただきながら、（一緒に受入時の作業など体験あり。）一緒に考えていただけるように計画します。（地元関係者との意見交換、検討会議等）

- ・最終的に2月～3月を目処に黒潮町での報告会を計画しています。

文字サイズ 小 中 大

[アンケート](#) | [サイトマップ](#)



サイト内検索



[NPO基礎情報](#) [有識者会議・研究会等](#) [統計調査等](#) [法律・制度改正](#) [NPO法Q&A](#) [審附について](#)

TOP > [NPO法人ポータルサイト](#) > 特定非営利活動法人NPO砂浜美術館

[NPO法人ポータルサイトでお困りのとき](#)

[法人ログイン](#)

NPO法人ポータルサイト

特定非営利活動法人NPO砂浜美術館

[行政入力情報印刷プレビュー画面](#)

行政入力情報

更新年月日: 2016年09月06日

所轄庁	高知県
主たる事務所の所在地	高知県幡多郡黒潮町浮鞆3573番地5
従たる事務所の所在地	-
代表者氏名	村上健太郎
設立認証年月日	2003年09月04日
定款に記載された目的	この法人は、まちづくり、保健、福祉、教育、文化、環境といった広範囲にわたるあらゆる地域の活性化を図る活動を、住民、行政、企業、社会貢献活動を行う団体や個人、関係機関と連携を図りながら進めることによって、人材の育成と豊かなまちづくりを行い、もって不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする。
活動分野	保健・医療・福祉／社会教育／まちづくり／観光／農山漁村・中山間地域／学術・文化・芸術・スポーツ／環境の保全／災害救援／地域安全／人権・平和／国際協力／男女共同参画社会／子どもの健全育成／情報化社会／科学技術の振興／経済活動の活性化／職業能力・雇用機会／消費者の保護／連絡・助言・援助
法人番号	1490005002017

監督情報	-
------	---

行政入力情報ダウンロード	行政入力情報ダウンロード(ZIP形式: 1KB)
--------------	--

[ページトップへ](#)

閲覧書類等

更新年月日: 2018年12月04日

2016年度	2016年度事業報告書等(PDF形式: 2MB)
2015年度	2015年度事業報告書等(PDF形式: 749KB)
定款等	定款(PDF形式: 327KB)
閲覧書類備考	※事業報告書の欄に、活動計算書等が一括して掲載されている場合があります。

※[閲覧書類ダウンロード(ZIP形式)]リンクでは、現在表示されているNPO法人について所轄庁に登録した「閲覧書類等」および、NPO法人が登録した「公告(貸借対照表の公告を含む)」のPDFファイルがダウンロード出来ます。

① ※お使いの端末により、ダウンロードを行えない場合があります。

閲覧書類ダウンロード	閲覧書類ダウンロード(ZIP形式: 3MB)
------------	--

所轄庁情報

内閣府のNPO法人に関するデータベースは、所轄庁に提出された書類をもとに、所轄庁の担当者が登録を行っております。実際の設立や変更から反映までに時間がかかる場合があります。御了承ください。

法人検索結果で得られる個別の法人情報及び閲覧書類、または所轄庁ごとの最新情報に関する問い合わせは、各法人の所轄庁へお問い合わせください。

所轄庁問い合わせ先 ※NPO法人の連絡先ではありません。	高知県 文化生活スポーツ部 県民生活・男女共同参画課 高知県高知市丸ノ内1丁目2番20号 088-823-9769
---------------------------------	---

[ページトップへ](#)

[法人入力情報印刷プレビュー画面](#)

法人入力情報

更新年月日: 2017年08月09日

免責事項

こちらはNPO法人が登録した法人情報を掲載しています。内容については、国が保証するものではありません。御了承のうえ、御参照ください。

組織情報

電話番号	0880-43-4915
FAX番号	0880-43-1527
メールアドレス	nitari@sunabi.com
ホームページURL	http://www.sunabi.com/
常勤職員数	15人
事業内容	<p>「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」というコンセプトのもと、高知県黒潮町にある長さ4kmの砂浜を頭の中で美術館にみたてた、建物のない美術館です。BGMは波の音、夜の照明は月の光。砂浜に流れ着く漂流物、砂浜についた鳥の足跡、産卵にくるウミガメ、土佐湾を泳ぐニタリケジラなどが作品で、地域資源を少し見方をかえることで新しい価値を生み出す活動です。現在活動は様々な分野に広がっており、下記のような事業活動を行っています。</p> <p>①シーサイドギャラリー事業 Tシャツアート展や潮風のキルト展など、砂浜美術館の作品である「砂浜」や「松原」を活用したイベントを開催。また、砂浜美術館の考え方を商品にしたミュージアムグッズの販売や、Webショップの運営を行っています。2011年からは黒潮町内小学校で、砂浜美術館に関する出前授業を実施。Tシャツアート展が海外へも広がっていることを生かし、国際理解教育もを行っています。</p> <p>②公園管理事業 砂浜に隣接した、高知県立土佐西南大規模公園の指定管理者として、スポーツ施設やキャンプ場、集会場などの公園施設の管理運営を行っています。みんながワイワイする公園空間の創造を目標に、地域の人たちの共有財産として大切にしてもらえることを意識した公園管理事業を行っています。</p> <p>③スポーツ合宿等誘致事業 高知県立土佐西南大規模公園には、充実したスポーツ施設があり、これを活用したスポーツ合宿・大会誘致を通じたまちづくり事業に取り組んでいます。旅行業を取得し宿泊や体験プログラムの手配を行うとともに、地域との接点を数多くつくることで、「人・もの・お金・情報」の新しい流れを地域内に生み出す活動をしています。</p> <p>④映像事業 黒潮町のケーブルテレビIWKTVの自主番組放送の制作や、地域文化のアーカイブスの制作など、映像を通じた地域資源の価値創造を行っています。</p> <p>⑤観光事業 ホエールウォッチングをはじめ、地域資源を活用した様々な体験プログラムの開発・受け入れを行っています。黒潮町は2011年に最大34mの津波高が想定された町で、数値の公表は黒潮町の観光にも打撃を与えました。しかし、それをプラスにとらえ、防災学習プログラムの開発を行い、修学旅行生や一般団体へのプログラム提供もを行っています。</p>

財務情報

対象年度	2016年 (2016年4月～2017年3月)
準拠している会計基準等	
準拠している会計基準	公益法人会計基準
監査の実施	監事監査
法人入力情報ダウンロード	法人入力情報ダウンロード(ZIP形式: 2KB)

[ページトップへ](#)

現在、公告情報はありません。

※[閲覧書類ダウンロード(ZIP形式)]リンクでは、現在表示されているNPO法人について所轄庁に登録した「閲覧書類等」および、NPO法人が登録した「公告(貸借対照表の公告を含む)」のPDFファイルがダウンロード出来ます。

❶ ※お使いの端末により、ダウンロードを行えない場合があります。

[閲覧書類ダウンロード](#)

[閲覧書類ダウンロード\(ZIP形式:3MB\)](#)

[ページトップへ](#)



内閣府政策統括官(経済社会システム担当)付参事官(共助社会づくり推進担当)
 〒100-8914
 東京都千代田区永田町1-6-1
 中央合同庁舎第8号館
 電話番号03-5253-2111(大代表)
 Copyright©2012 the Cabinet Office All Rights Reserved.

[NPO基礎情報](#)
[有識者会議・研究会等](#)
[統計調査等](#)
[法制度・制度改正](#)
[NPO法Q&A](#)
[密附について](#)

[所轄庁一覧](#)
[パンフレット・手引き](#)
[震災復興関連](#)
[連絡先](#)
[リンク集](#)
[御意見・御感想](#)

[サイトマップ](#)
[このサイトについて](#)
[アクセシビリティについて](#)
[アンケート](#)

特定非営利活動法人NPO砂浜美術館定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人NPO砂浜美術館という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を高知県幡多郡黒潮町に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、まちづくり、保健、福祉、教育、文化、環境といった広範囲にわたるあらゆる地域の活性化を図る活動を、住民、行政、企業、社会貢献活動を行う団体や個人、関係機関と連携を図りながら進めることによって、人材の育成と豊かなまちづくりを行い、もって不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- ① 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- ② 社会教育の推進を図る活動
- ③ まちづくりの推進を図る活動
- ④ 観光の推進を図る活動
- ⑤ 農村漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- ⑥ 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- ⑦ 環境の保全を図る活動
- ⑧ 災害救援活動
- ⑨ 地域安全活動
- ⑩ 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- ⑪ 国際協力の活動
- ⑫ 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- ⑬ 子どもの健全育成を図る活動
- ⑭ 情報社会の発展を図る活動
- ⑮ 科学技術の振興を図る活動
- ⑯ 経済活動の活動化を図る活動
- ⑰ 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- ⑱ 消費者の保護を図る活動
- ⑲ ①から⑱の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- ① 前条第1号から第17号に関する報告・資料の収集提供、調査、研究、連絡調整、普及宣伝、広報啓発、推進、企画および実施事業
- ② 住民、行政、企業、個人、各種団体間のネットワークづくり及びコーディネート
- ③ 前第1号及び第2号の事業に付帯する事業
- ④ 旅行業法に基づく旅行業

2 この法人は、第3条の目的を達成するために、次のその他の事業を行う。

- ① 前条第1項第1号から第17号に関する調査研究、企画立案、広報啓発及びイベントの開催
 - ② 講師等の派遣事業、プログラムの提供事業、コンサルタント事業
 - ③ その他の必要な事業
- 3 第2項に掲げる事業は、第1項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その収益は、第1項に掲げる事業に充てるものとする。

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の3種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法(以下「法」という。)上の社員とする。

- ① 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人、法人及び団体
- ② 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人、法人及び団体
- ③ 特別会員 この法人が特に認め理事会が承認した個人、法人及び団体。特別会員の中から理事会の承認により顧問を設置することができる。

(入会)

第7条 この法人に正会員として入会しようとする者は、別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。

- 2 理事長は、前項の入会申込者が、第3条に定めるこの法人の目的に賛同し、第4条から第5条に定める活動及び事業に協力できるものと認めるときは、正当な理由がない限り入会を承諾し、入会申込者に対しこれを通知するものとする。
- 3 この法人の賛助会員、特別会員の入会に関することは別に定める
- 4 理事長は、前項のもの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 正会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 正会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- ① 退会届の提出があったとき
- ② 本人が死亡し、又は正会員である法人、団体が消滅したとき
- ③ 継続して2年以上会費を滞納したとき
- ④ 除名されたとき

(退会)

第10条 正会員は、別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が、次の各号の一に該当するにいたったときは、理事会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前の弁明の機会を与えなければならない。

- ① 法令、この定款または規則に違反したとき。
- ② この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(捻出金品の不返還)

第12条 この法人は会員がすでに納めた入会金、会費及びその他の捻出金品は、これを返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- ① 理事 10人以上25人以内
 - ② 監事 1人以上3人以内
- 2 理事のうち、1人を理事長、2人を副理事長とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において正会員の中から選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 総会が招集されるまでの間において、理事または監事を選任する必要があるときは、前項及び第23条の規定にかかわらず、理事会の議決によりこれを選任することができる。この場合においては、当該理事会開催後に開催する総会において承認を受けなければならない。
- 4 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者もしくは三親等以内の親族が、一人を越えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が、役員総数の3分の1を越えて含まれることになってはならない。

5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることはできない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を統括する。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

4 監事は、次に掲げる業務を行う。

① 理事の業務執行の状況を監査すること

② この法人の財産の状況を監査すること

③ 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること

④ 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること

⑤ 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること

(任期等)

第16条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するにいたったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し弁明の機会を与えなければならない。

① 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき

② 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置くことができる。

2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- ① 定款の変更
- ② 解散
- ③ 合併
- ④ 事業報告及び収支決算の承認
- ⑤ 役員を選任及び解任、職務及び報酬
- ⑥ 借入金(その事業年度内の収入をもって償還する短期借入金を除く。第50条において同じ。)その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- ⑦ 事務局の組織及び運営
- ⑧ その他運営に関する重要事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- ① 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき
- ② 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき
- ③ 第15条第4項第4号の規程により、監事から招集があったとき

(招集)

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、前条2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面のほか、インターネット、電子メールをもって、少なくとも7日前までに召集通知を発信して行わなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、1人(1法人、1団体)1票とする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、前2条、次条第1項及び第51条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

① 日時及び場所

② 正会員総数及び出席者数(書面表決者及び表決委任者がある場合にあっては、その旨を付記すること。)

③ 審議事項

④ 議事の経過の概要及び議決の結果

⑤ 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2名以上が署名、押印しなければならない。

第6章 理事会

(構成)

第 31 条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第 32 条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- ① 総会に付議すべき事項
- ② 総会の議決した事項の執行に関する事項
- ③ 事業計画及び収支予算並びにその変更
- ④ その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第 33 条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- ① 理事長が必要と認めたとき。
- ② 理事現在数の 3 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- ③ 第 15 条第 4 項第 5 号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第 34 条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第 2 号及び第 3 号の規定による請求があったときは、その日から 14 日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。

(議長)

第 35 条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

- 第 36 条 理事会における議決事項は、第 34 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。
- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第 37 条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第 1 項の適用については、理事会に

出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 38 条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- ① 日時及び場所
 - ② 理事総数及び出席者数(書面表決者にあつては、その旨を付記すること。)
 - ③ 審査事項
 - ④ 議事の経過の概要及び議決の結果
 - ⑤ 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 名以上が署名、押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第 39 条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- ① 設立当初の財産目録に記載された資産
- ② 入会金及び会費
- ③ 寄付金品
- ④ 財産から生じる収入
- ⑤ 事業に伴う収入
- ⑥ その他の収入

(資産の区分)

第 40 条 この法人の資産は、これを分けて特定非営利活動に係る資産、その他の事業に係る資産の 2 種とする。

(資産の管理)

第 41 条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第 42 条 この法人の会計は、法第 27 条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第43条 この法人の会計は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する会計、その他の事業に関する会計の2種とする。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、理事長が作成し、理事会の承認を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の承認を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の承認を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算書上剰余金を生じた時は、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第49条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨機の措置)

第50条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借り入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第51条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上

の多数による議決を経、かつ、法第 25 条第 3 項に規定する軽微な事項を除いて、所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第 52 条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- ① 総会の議決
- ② 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- ③ 正会員の欠亡
- ④ 合併
- ⑤ 破産
- ⑥ 所轄庁による認証の取消し

2 前項第 1 号の事由によりこの法人が解散するときは、総会に出席した正会員総数の 4 分の 3 以上の承諾を得なければならない。

3 第 1 項第 2 号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第 53 条 この法人が解散(合併又は破産による解散を除く。)したときに残存する財産は、法第 11 条第 3 項に掲げる者のうち、総会で決する特定非営利活動法人または社団法人、財団法人に譲渡するものとする。

(合併)

第 54 条 この法人が合併しようとするときは、総会に出席した正会員総数 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第 55 条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

第10章 雑則

(細則)

第 56 条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

付則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とし、その任期は、第 16 条第 1 項の規定

にかかわらず、成立の日から平成17年総会までとする。ただし法人成立の日から2年を超えない期間とする。

理事 安光 平

同 酒井 公順

同 松本 輝雄

同 加持 誠司

同 武政 登

同 兼松 方彦

同 芝 久義

同 前田 長秋

同 坂本 あや

同 下村 正直

同 森本 孝男

同 谷 一志

同 水野 聖子

同 下村 勝幸

同 松田 春喜

同 山本 広明

同 小松 昭夫

同 松本 秀正

同 除本 健代

監事 坂本 勝

同 金子 良一

- 3 この法人の設立当初の事業年度は、第49条の規定にかかわらず、設立の日から平成16年3月31日までとする。

変 更

平成23年9月10日に、臨時総会にて、第5条を変更し、認証日より適用する。

1. シーサイドギャラリー部

○シーサイドギャラリー

(1) 第 28 回Tシャツアート展

平成 28 年 5 月 1 日～6 日の日程で T シャツアート展を開催した。また町内すべての小学校 4 年生の参加や授業の実施など、地域の接点を多く作った。

■展示作品数 1111 点

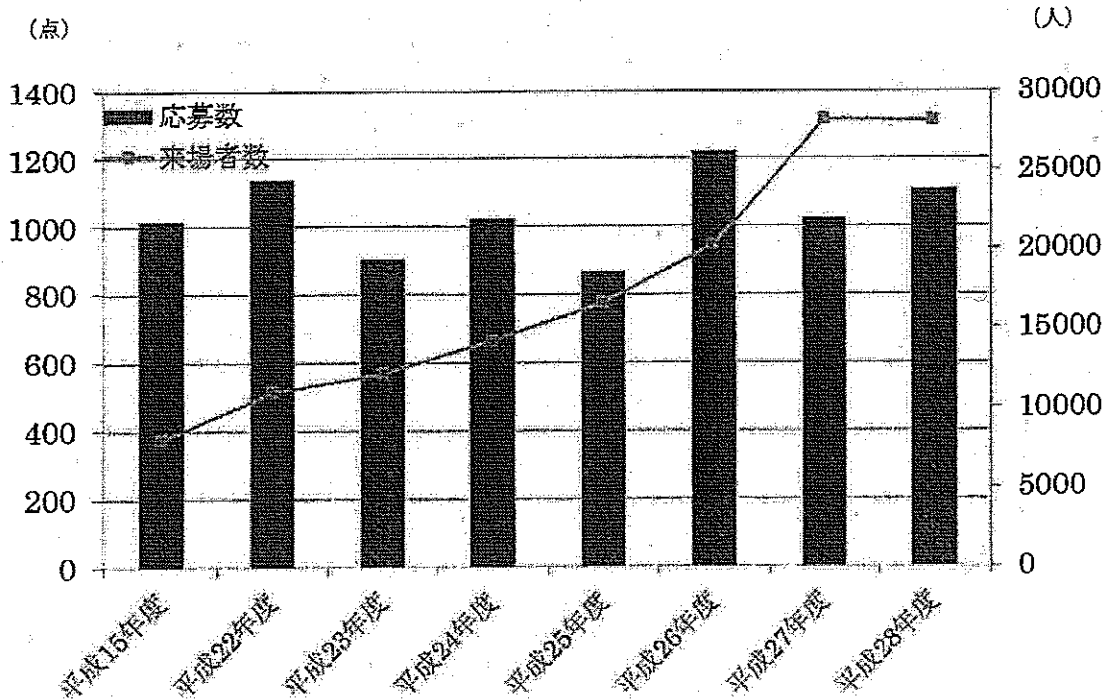
※応募作品 1022 点と、歴代砂浜大賞のレプリカTシャツ、かんぱんTシャツを砂浜に、協力企業Tシャツ等を公園入口に、初代地区の宝Tシャツ、応援Tシャツを坂折地区にて展示。

○町内の応募数:217 点(全体の 22%)

- 特色1:「海でつながるTシャツアート展」企画として、審査員・鍵井さんの海の写真、黒潮町の小学生、ケニアの小学生の海の絵、海つながりのNPOからの応募等 192 点
- 特色2:青年海外協力隊派遣 50 周年の JICA とのコラボ企画
世界中で活動中の隊員や四国在住の隊員 OB より「世界の笑顔写真」50 点
- 特色3:「ひらひらフレンドシップ」を結ぶ各地より
(気仙沼、富山、北海道新冠町)からの応募 103 点

○ボランティア 約 100 人

Tボラ 17 期生 8 名、高知工科大学マネジメント学部の学生 7 名が期間中、であいの里蜷川に宿泊し活動。黒潮若手の会、JA 青年部など地元のボランティアも多くかかわってくれた。



T シャツアート展の応募者・来場者数の推移

(2)シーサイドギャラリー2016 夏

8月15日、シーサイドギャラリー2016夏を開催した。本年も実行委員会形式をとり、黒潮町商工会、黒潮町役場とともに実施。来場者は約12,000人ほどであった。花火大会前にはフランドンスを始め砂浜ヨガを行うなど、砂浜で楽しむ取組を積極的に行った。また、黒潮若手の会の協力で、IWKの番組として、キスの投げ釣り大会が復活。約30名の方が参加した。会場にこられない町民のみなさまに対して、今年もIWKで生放送し好評であった。

(3)潮風のキルト展・らっきょうの花見

11月11日～13日の3日間、潮風のキルト展を開催した。終日天候に恵まれ、来場者数2,788人、作品数49点であった。まるごと産業祭と会期を合わせたことや、作品募集チラシを早期に作成し、Tシャツアート展会場でも配布したことが、来場者の増加につながったと思われる。Tシャツアート展とは違った層の来場者であった。

(4)砂の彫刻

駅前砂像の実施はなかったが、黒潮町砂像メンバーが参加した他地域でのイベントに同行し、黒潮町、また砂浜美術館のPRを行った。

(5)漂流物展

2/10～3/5の会期で、ビオスおおがた情報館内で漂流物展を開催した。本年は種子をテーマに展示を行った。

(6)すなびてんぼ

H24年度から運用を始めているWebショップをはじめイベント会場やビオスおおがた情報館で、砂浜美術館のオリジナルグッズの制作や販売、また地域商品の販売を行った。H27年度比で売上73%。Webショップは29%と大幅減となった。

すなびてんぼの実績推移

(単位:円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
売上	2,054,145	3,839,307	4,474,704	5,888,587	4,327,813
利益(税引前)	739,870	1,199,372	1,437,948	1,966,219	1,432,335
Webショップ売上	96,135	666,465	950,969	1,429,875	409,742

(7)国際理解教育のコーディネート

JICA 四国の青年研修「フィリピン/地域における中小企業振興コース」で15名の受入れを行った。漁家民泊や地域の体験プログラムも行った。また黒潮町の国際教育事業を活用して、今年も小学校4年生がTシャツアート展の作品作りと同時に、ケニアとの交流授業を行い、地域における国際理解教育を推進した。

○すなび旅行

平成25年に旅行業登録を行ってから、4年が経過した。旅行業を通じての事業は、スポーツ合宿・大会による宿泊施設手配が大部分であり、小グループを対象とした旅行商品の造成については、なかなか実績につながっていない。防災学習プログラムについては、問い合わせも増えており、平成28年度は2件の実施が予定されているが、地域内の体験プログラムと組み合わせながら、視察・研修の可能性を検討した。

○ホエールウォッチング

本年度は4月23日からシーズンが始まり、10月22日をもってシーズンを終了した。予約数は昨年度から微減で1,284名。7月は天候不順で予約数の約2割しか出航できず、乗船客数が伸びなかった。ここ2年ほど、雨天プログラムを用意し、出港できなかったお客様向けに紹介していたが、利用は年間20人程度であり、手配等の作業量を考えると効果が余り期待できず、本年は実施しなかった。出港人数2,000人を突破できない状況を打破するために、今後は下記のような取組みを検討する。

- ・宿泊施設とタイアップした広報(宿泊とのセットプラン等)
- ・砂浜美術館の館長として面白さをアピール
- ・漁師によるパーベキューなど、ほかの魅力と掛け合わせたツアーの実施

(A)・(B)共通

○日本版DMOの推進

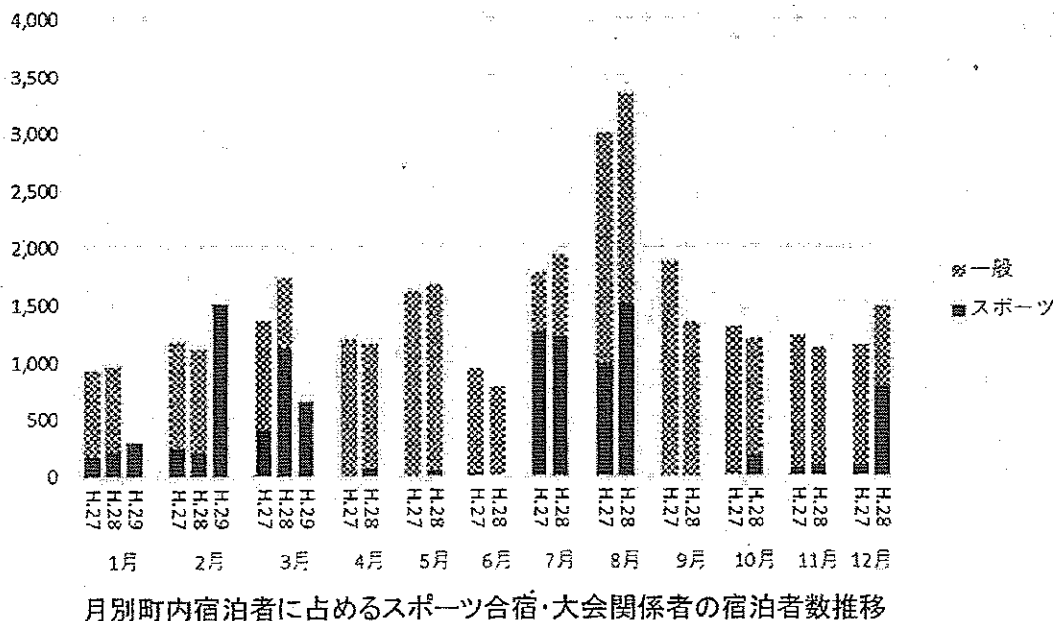
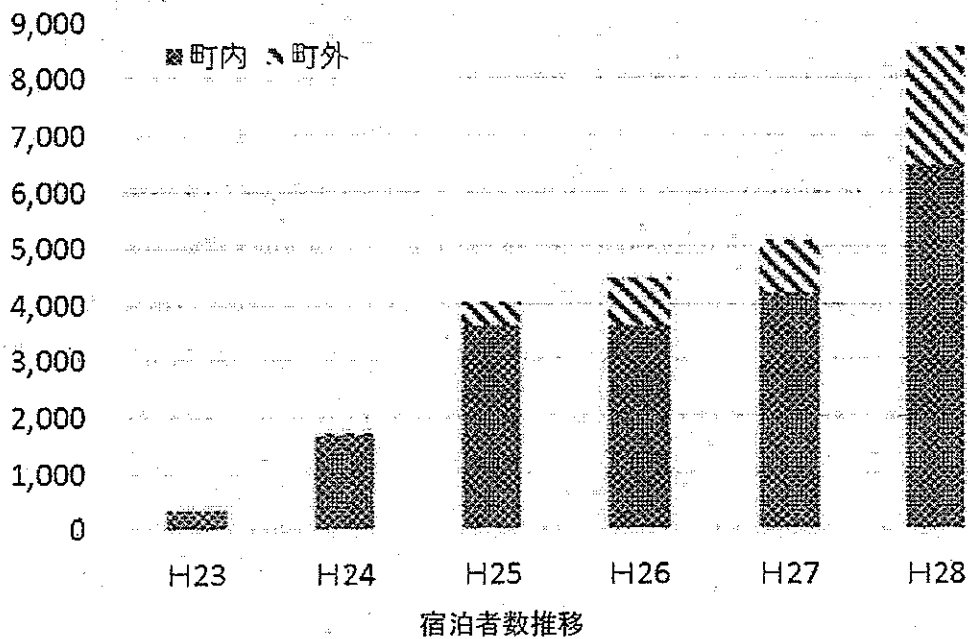
平成28年8月30日付で、日本版DMO候補法人に登録された。今後、黒潮町観光ネットワークと連携を取りながら、DMOの手法を用いて観光地域づくりを進めていく基礎ができた。収集したデータを分析し、今後の黒潮町観光戦略を作成し、観光産業の推進につなげていきたい。

2. スポーツ部

○すなびスポーツ

平成23年度より、ふるさと雇用対策事業を活用して実施してきたスポーツ合宿・大会誘致の取り組みは、黒潮町・黒潮町観光ネットワークとの連携で順調な実績を重ね、通年通しての観光振興の大きな柱に成長した。そうした実績のもと導入となった、土佐西南大規模公園内・土グラウンドの人工芝工事も始まった。施設の充実とともに、黒潮町の食や砂浜を中心とした開放的なロケーションも魅力となっている。

(泊)



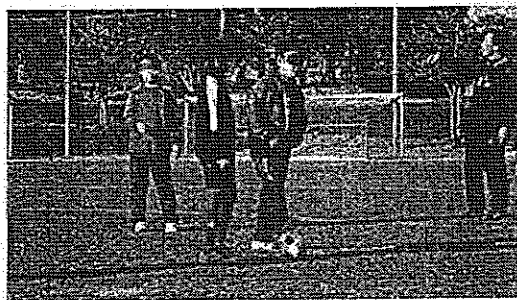
○黒潮町スポーツ活用型による持続可能なまちづくり事業

平成 28 年度単年度の地方創生加速化交付金事業をうけ、上記事業を行った。

(1) スポーツイベント開催業務

現在、サッカー(男子)・野球を中心とした誘致活動を行っているが、今後多分野の誘客の可能性を検討するために、下記のイベント開催を行った。

- A. 女子ジュニアサッカー 12/26～29
- B. 障害者スポーツ(ブラインドサッカー) 1/28
- C. シニアスポーツ(パークゴルフ) 3/7～10(北海道からのモニターツアーの開催)



ブラインドサッカー



パークゴルフモニターツアー

(2) ニーズ調査分析業務

地域の観光マネジメントを担うDMOとして、調査分析に基づいて戦略的に事業実施していくために、下記の項目について調査分析を行い、行政や黒潮町観光ネットワーク会員と共有した。

- A. 道の駅利用者の観光消費額等
- B. 黒潮町内延べ宿泊者数
- C. スポーツ合宿・大会参加チームの満足度
- D. サーファー
- E. 黒潮町の認知度

(3) 販促営業ツール作成業務

スポーツ誘客時の使用を目的とし、これまでに合宿・大会に訪れたスポーツ団体の関係者(監督等)との話を参考しながら、下記の営業ツールを作成した。

- A. 土佐西南大規模公園内スポーツ施設、町内宿泊、体験施設の紹介映像
- B. 映像も含めた映像とSNSを活用したPRツール
- C. 黒潮町スポーツガイド、合宿助成金の紙媒体パンフレット

(4) 大方球場芝生化業務

野球のスポーツ合宿誘客につなげるため、大方球場の土の外野を芝生化する事業を行った。スポーツを通じたまちづくりの雰囲気高めるため、6/5 に実施した植え付け作業は野球場利用者や町民約 100 名が作業を行った。



6/5 当日の様子①



6/5 当日の様子②

(まとめ)

黒潮町観光ネットワークの会員、行政(町・県)と連携しながら進めてきたスポーツツーリズムの動きは、町をあげての取組となっている。施設の充実が最重要項目であり、人工芝 2 面が完成すれば、受入れ規模の拡大や、芝の状態の向上につながる。また本年度から、現場 3 名体制により、受入体制も充実した(1 名は地域おこし協力隊)。



砂浜トレーニングの様子

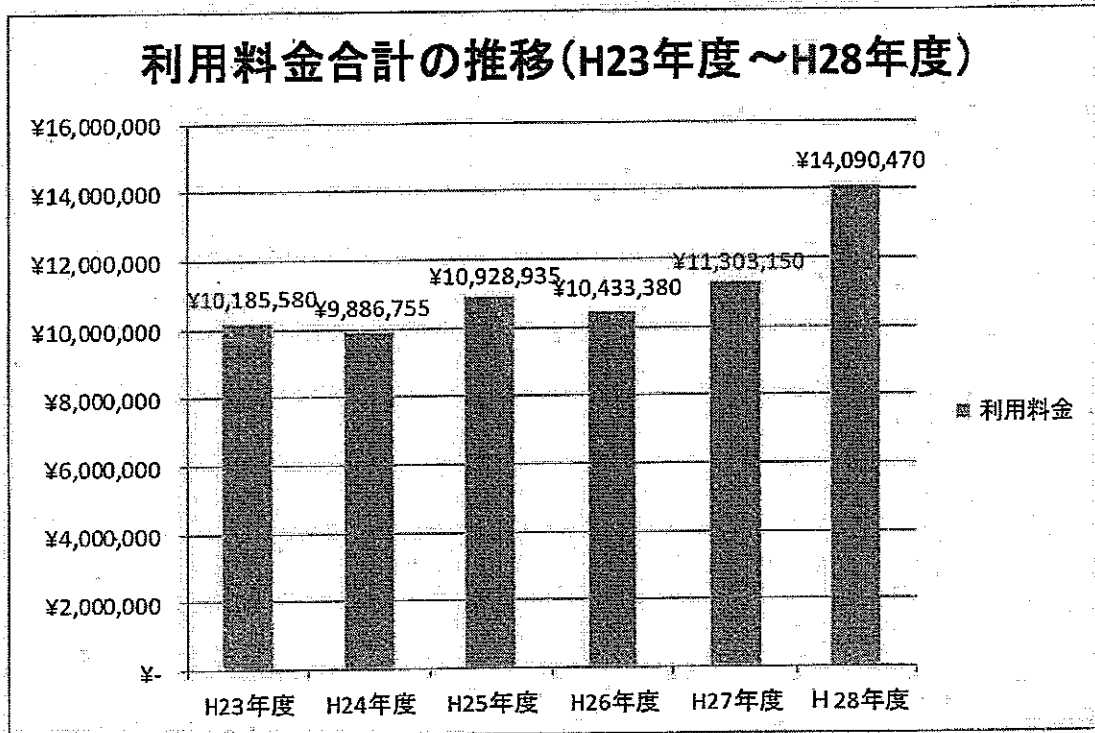


シーカヤック体験

砂浜がスポーツ施設に隣接した場所は、四国エリア内では少なく、砂浜トレーニングを行う環境として適している。砂浜が大運動場として使われることは、砂浜の新たな価値を創出することに繋がっている。チームによっては、合宿中自然体験プログラム等を希望する学校もあり、こうした経験が、訪れた子どもたちの記憶に残り、将来また、黒潮町、砂浜美術館を訪れるきっかけになることも意識して取り組みを行っている。今後は目標とする誘客数達成と、受入を通じて地域資源の価値を実感することにも意識をおいて、すなびスポーツをさらに充実させていきたい。

3. 公園管理部

指定管理者4期目の2年目を終えた。11月に中村JC60周年感謝祭イベント、「世界津波の日」高校生サミットという催し物が体育館周辺で行われ、利用料収入が大幅に増加した。(前年度比124%)。両イベントの利用料収入は2,442,110円でこれを差し引いたとしても、前年度より約30万円収入増となっている。



○ 前年度の課題に対する取組み

(1) 施設利用料収入の確保/減免措置による減収への対策

■ サッカー(球技場、サッカー場、多目的運動広場利用)

スポーツツーリズムの推進(合宿・大会の誘致)。新規の大会の実施、利用調整

■ テニスコート

競技人口が多く、連盟の熱心な活動により利用増。地元の利用団体との関係を大事にし、備品・消耗品のこまめな修繕・交換をこころがけた。

■ 体育館

利用料収入が減少しており有効な対策がとれなかった。減少の要因は夜間フットサルサークルの利用の大幅減。その他サークルにも当てはまるが、メンバーが減り、練習回数が減りさらに利用料無料の体育館へ移ってしまっている状況があるもよう。

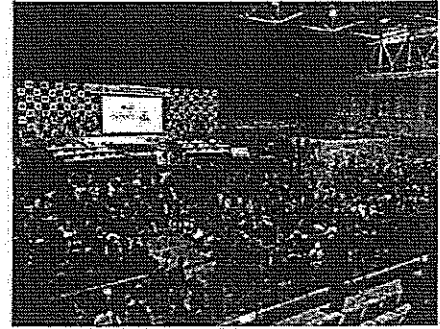
■ パークゴルフ場

日常管理(刈込・散水、カップ切り)に加え、要望としてあった植栽の移植など県と協議し対応した。また3月には北海道からの13名を招きモニターツアーも実施。これまでにない動きで地元会員の方々への刺激になったのではないかと思います。

■ イベント利用の対応

11月の中村JC60周年感謝祭イベント、「世界津波の日」高校生サミットは利用料金が高く設定されている“スポーツ以外”区分。高校生サミットは当初減免利用の話があったが、県・町の主催者との協議で利用制限期間分も利用料を確保することができた。

高校生サミットの様子⇒



高校生サミットは、緊張と不安の大きい対応だったが無事に終え、スタッフの経験・自信UPにもつながった。また、普段スポーツ施設では交流のない人とかかわりがあり、その中でそれぞれのプロの仕事に触れることが多く、大きな学びのある有意義な機会だったと思う。

■ ふるさと総合センター

施設設備が古い分利用ごとの対応の徹底(接遇、サービス面)でカバー。また3月には自主事業(黒潮町紅白歌合戦)を町内のいろいろな方の協力を得て実施した。新たな事業で今後につながる動きとなった。

(2) 人工芝の利用促進と管理運営

他県の人工芝グラウンドへ視察に行き管理作業や利用状況についての情報収集を行った。また、利用促進の動きとして、グラウンドゴルフの利用を大規模公園内でできないか検討したが、高齢の利用者が多いことや公園占用料・管理料が発生することから実現には至っていない。日常利用(平日)を確保のために、引き続きシニア世代や地元の利用促進の動きを活発に行う必要がある。

(3) 新体制への準備・引継ぎ

澳本多丸が定年により退職した。再雇用という立場で引き続き管理に携わってくれるが、その業務と責任を他のスタッフが引き継いでいくよう確認した。また澳本信恵の退職により体育館に森岡を配置し、新体制で受付事務の効率化、利用対応力のアップに努めている。

○ 今年度の展開・課題

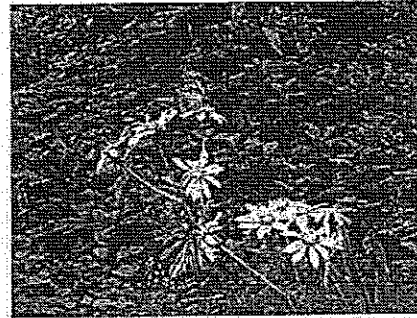
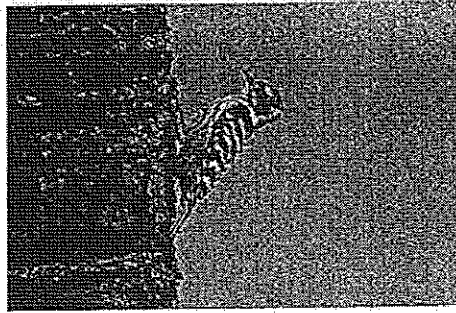
(1) 利用料収入の確保と施設管理のレベルアップ

人工芝グラウンドも完成し新たなステージで公園管理がはじまる。以下の取り組みをしたい。

- ・ スポーツ合宿・大会の誘致(継続)と体育館競技の誘致
- ・ 人工芝グラウンドのPR
- ・ 天然芝のレベルアップ(人工芝グラウンドを活用した維持管理作業)
- ・ 施設の改修や設備更新の要望
- ・ 接遇面のレベルアップ(全スタッフ)
- ・ 利用団体・競技者との調整(利用頻度にかかわらず各種団体と広く)
- ・ ふるさと総合センターを活用したMICE誘致の可能性検証

(2) 公園内の環境を生かしたうごき(自然環境文化の再発掘・再認識)

スポーツゾーンの利活用が目立っているが、公園の機能はそうした面だけではない。緑地や自然環境が豊かなこと、人と自然の関わりが密接で地域の文化が作られていることに目を向けた活動を行いたい。まずは、公園区域の動植物について知ること、そして地元の野鳥愛好家や写真家の方々との交流の場を持ち、情報を収集することから始める。



(3) 自主事業の運営(地域とのかかわりあい)

平成29年3月に実施した「黒潮町紅白歌合戦」は準備期間が短く告知等も不十分だったが、町内のいろいろな方にご協力ご参加いただき無事実施することができた。これまで、自主事業として主催する催しはあまりなく、積極的に地域とのかかわりあいを持っていなかった。しかし、紅白歌合戦を実施してみて、幅広い世代の住民と楽しむ・交流することを目的とした事業はやはり重要だと実感した。地域の方々にとって気軽に声かけられる親しみやすい存在であるために、こうした事業を継続的に行っていきたい。



4. 映像部

(1) IWKTVでの下記のような番組制作を行った。

番組内容一覧表

番組タイトル	番組内容
IWKNEWS	黒潮町のニュース番組
おしえて食改さん	食育改善委員による健康料理番組
図書館どうでしょう	新刊・蔵書の案内
ロコクロ体操	ロコモティブシンドローム予防のための、黒潮町版健康体操
耳をすまして	まちの人による読み聞かせ番組
ザ☆黒潮人	黒潮町の「人」にクローズアップした番組
くろしお☆チルドレン	町内のこどもたちを紹介
行政チャンネル	行政情報番組
防災チャンネル	防災情報番組
えいちや!知っ得!黒潮町	黒潮町のいろいろな情報をお届けする番組
いとたら	町内の釣り場を紹介する番組
ふるさと散策	黒潮町内の風景を散策・再発見する番組
おはなし玉手箱	町内の昔話や伝承を紙芝居で伝える番組
特番	学校行事や地域のイベント、各種講演会などを放送
中継(自)	黒潮町議会や講演会などを放送
中継(外)	高知県議会や高校野球などを放送
Kochi on TV!	高知の情報番組
片さんのFish!おふ	高知発の釣り番組
JCC三人娘が行く!	全国各地の情報を紹介する番組

..... 外部制作番組

(2) その他映像制作

- ・地域アーカイブス(田野浦・熊井)
- ・卒業式や発表会などのDVD作成など

生中継等放送内容一覧表

分類	内容	回数
黒潮町議会中継	平成27年6月定例会	4
	平成27年9月定例会	4
	平成27年12月定例会	4
	平成28年3月定例会	6
高知県議会中継	平成27年6月定例会	5
	平成27年9月定例会	7
	平成27年12月定例会	5
	平成28年2月定例会	8
野球中継	平成28年度高知県高校野球チャレンジ戦	2
	第69回春季四国地区高校野球大会	2
	第98回全国高校野球選手権大会 高知大会	9
	四国アイランドリーグplus公式戦	2
	第69回秋季四国地区高校野球大会 高知県予選	4
	第69回秋季四国地区高校野球大会	2
	土佐の「おきやく」公式イベント べろべろの神様カップ2017	1
花火大会中継	シーサイドギャラリー2016夏	1
よさこい祭り中継	熱踊！よさこい2016	2
高校生サミット中継	「世界津波の日」高校生サミットin黒潮	1
災害情報	4月16日 地震注意喚起	1
	9月20日 台風 土砂災害警戒情報	1

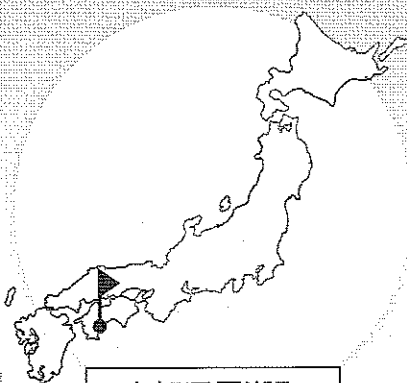
番組撮影箇所図



まちづくり 実践レポート

～北から南から～

美しい砂浜を美術館と捉えて
そこにあるすべてのものを作品に見立て
Tシャツアート展の開催等を通じて
地域の新たな価値を発信



高知県黒潮町
砂浜美術館



Tシャツアート展

私たちの町には美術館がありません。

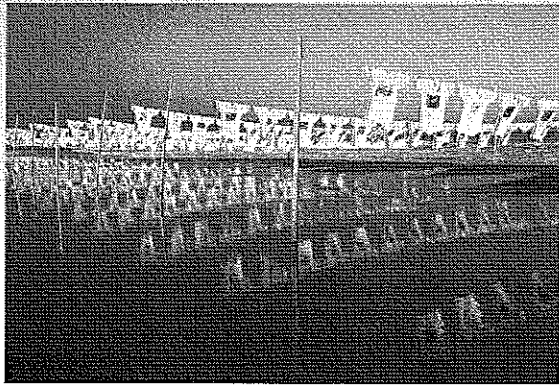
美しい砂浜が美術館です。

——高知県黒潮町にある「砂浜美術館」のコンセプトだ。この言葉どおり、施設としての美術館が存在するわけではない。あるのは、4キロメートルにわたって遮るものもなく続く白い砂浜と、その背後に連なる松林。そして、ここを舞台とする自然や人間のあらゆる営みを、私たちに大切なメッセージを送り届ける「作品」と捉える。

そう考えると、24時間365日年中無休、季節や天候によって“展示内容”が刻一刻

と移り変わる砂浜美術館は、世界で最も先端をゆくミュージアムかも知れない。館長はニタリクジラ、BGMは波の音、夜の照明は月の明かり。砂浜の風景が常設展とすれば、人気イベントとしてすっかり定着した、5月の「Tシャツアート展」や11月の「潮風のキルト展」は、さながら毎年恒例の特別企画展だ。

このユニークな取り組みが始まったのは、今から30年近く前の1989年。住民・行政・アーティストの連携から、ポトムアップの形でうねりが起こった。



Tシャツアート展



シーサイドはだしまラソン全国大会

29回目のTシャツアート展に 3万人以上の来場者

五月晴れの真っ青な空と海に、1000枚以上のTシャツがくっきりと美しく映える。潮風を受けて一斉にひらひらとはためくその姿は、まさにアートそのものだ。29回目を迎えたTシャツアート展は、2017年5月3日から8日までの6日間、黒潮町入野の浜で開催され、来場者数は初めて3万人を超えた。

訪れた人々は、「Tシャツの波」の間を遊泳するように三々五々散策したり、お気に入りの作品と一緒に写真を撮ったり。自分が応募した作品を見つけて歓声を上げる人も、そこここに見られる。砂の感触を噛みしめるようにゆったりと歩きながらの作品鑑賞は、いつの間にかみんなを笑顔にする。

浜辺に杭を打ち込んでロープを張り、そこに洗濯物を干す要領でTシャツをつなげていく。Tシャツの胸のところには、全国から寄せられた絵画・イラスト・CG・写真などの応募作品がプリントされている。したがって、1枚1枚が世界に2つとないオリジナルTシャツだ。

応募者は、参加費4000円を払って原画等を郵便やメールで送る。事務局がそれをTシャツにプリントし、アート展期間中は砂浜に展示。終了後、原画とともにTシャツを応募者に返送する。応募者にとっては、自分の作品が海や空と一体になってアートの一部を構成することができ、なおかつ作品をプリントしたTシャツが自分のものになるので、参加費分の値打ちは十分すぎるほどあるに違いない。

また、応募全作品を対象に審査を行い、砂浜大賞1点(賞金10万円)、優秀賞2点(5万円)などの各賞が選ばれるので、実力があれば受賞ねらいの楽しみもある。

Tシャツ自体にもこだわり抜いている。原料の木綿はオーガニックコットン100%で、これを国内においてグリーン電力を使って縫製。サイズも6種類から選べる。Tシャツメーカー・久米繊維工業(株)の久米信行会長は、Tシャツアート展を「日本で、いや世界で一番美しく楽しいTシャツイベント」と表現し、公私にわたって応援している。

基本的な考え方について 若者たちで徹底的に議論

砂浜美術館の構想が生まれたのは、1989年に行われた第1回Tシャツアート展のときだ。東京の写真家・北出博

基さん(故人)が、「自分の撮影した写真をTシャツにプリントして砂浜に展示したら面白いのではないか」というアイデアを抱いていた。それを聞いた知人のグラフィックデザイナー・梅原真さん(高知県在住)は、それなら大方町(現黒潮町)の海岸がいいと考えていたところ、同町の若手職員2人(松本敏郎さん、畦地和也さん)が別件で梅原さんを訪ねてきた。

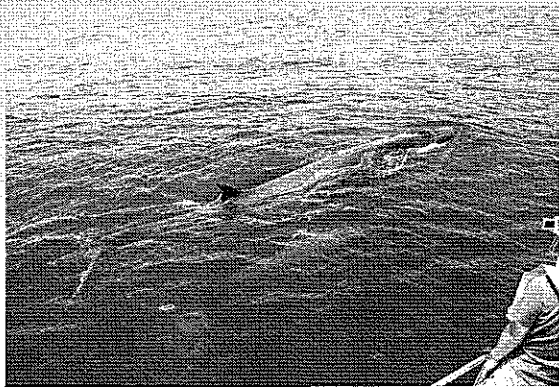
梅原さんの話を聞いた松本さんらは、ぜひTシャツアート展を実現させたいと町長に直談判するとともに、役場内外に声をかけて一緒に活動するメンバーを募った。こうしてつくられたのが、町職員や商工会、青年団などのメンバー約30人で構成する「砂美人連」だ。

砂美人連では何度も集まって喧々諤々の議論を重ねたが、それは具体的な運営方法についてではなく、基本的な考え方についてであった。その当時、地域では青年団などの活動がそれなりに活発だったが、イベントで盛り上がりながらもその場限りで終わってしまい、後に続いていかないというジレンマが彼らを悩ませていた。梅原さんもそういった事例をいくつも見てきて、松本さんたちに「考え方をきっちりすることが大切」と強調していた。

せっかくのアイデアを一過性のイベントで終わらせないためにどうするか。そんな話をする中で、メンバーの1人が撮影した、ありふれた砂浜の写真に目が留まった。「これも十分作品だよ」と誰かが言い出したことから、地元のありのままの自然や人間の営みに対して「これも作品」「あれも作品」と議論が発展していった。こうしたやりとりの成果を梅原さんがまとめたのが、「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です」で始まる砂浜美術館のコンセプトだ。

行政の支援については、ちょうど同じ年にスタートした新たな総合振興計画の重点項目中に「松原の復活」が盛り込まれており、これに関連付けた事業として位置づけるなどの工夫をして、町長を説得。当時の坂本義春町長は、「何もせんかったら何も起こらんけん、失敗してもいいからやってみろ」とゴーサインを出した。

こうして1989年8月13日から3日間、第1回Tシャツアート展が開催された。毎年入野海岸で開催されている夏祭り「フェスティバル大方」に合わせた企画で、砂の彫刻の展示も同時に行った。主催は、砂美人連のメンバーを中心とするシーサイドギャラリー実行委員会。このときはまだ作品を公募せず、北出さんの写真作品をプリントした200枚のTシャツを展示した。事業資金としては、町からの補助(シーサイドギャラリー事業費)165万円の



ホエールウォッチング

ほか、Tシャツの販売も行って20万円を売り上げた。

当時としてはかなり斬新な企画だったことから、新聞等でも取り上げられ、初めての試みは無事成功を収めた。以後、この催しは毎年途切れずに続いており、砂浜美術館のコンセプトを象徴するイベントとして年々賑わいの度を増している。

観光協会や公園管理協会と 統合してNPO法人化

その後、「砂浜美術館」のコンセプトを具現化するための諸事業を官民一体となって推進するため、任意団体としての「砂浜美術館」が設置され、役場内に事務局が置かれた。活動計画や予算については、議会や関係団体等で構成する運営委員会において決定する仕組みであった。

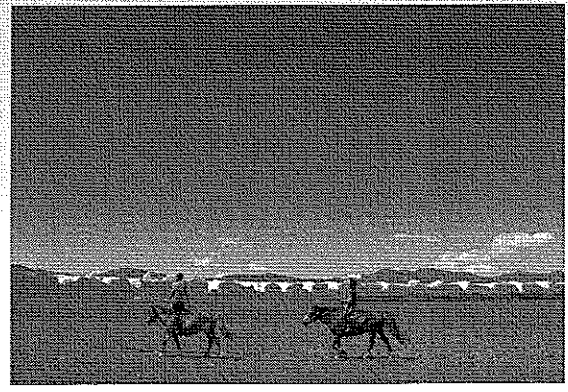
NPO法人化したのは2003年9月。その理由について、特定非営利活動法人NPO砂浜美術館理事長の村上健太郎さんはこう話す。

「砂浜美術館の理念は少しずつ浸透しつつあったものの、やはり一部には、Tシャツアート展について『町の予算を使って洗濯物を干して何になるのか』といった批判もありました。また、『町の職員が仕事もしないで砂浜で遊んでる』などと捉える人もいました。そこで、きちんと独立した法人格を取得し、事務局体制も確立して町と対等な組織として、改めて行政との関係を構築しようということになりました。」

法人化にあたっては、観光という切り口で共通点のある4つの団体の統合が検討された。前述の砂浜美術館運営委員会のほか、大方町観光協会、大方町公園管理協会、大方遊漁船主会である。Tシャツアート展などが開かれ砂浜美術館の主要拠点となっている入野海岸は、高知県が管理する都市公園（高知県立土佐西南大規模公園）の一部であり、この公園の管理を県から受託していたのが大方町公園管理協会である。また大方遊漁船主会は、当時脚光を浴びつつあったホエールウォッチング事業を行っていた。

より効果的・効率的な観光振興を図るには、組織統合までいかなくともせめて窓口を一本化することが望まれる。話し合いの結果、遊漁船主会以外は組織を解散し、NPO砂浜美術館として公園管理や観光振興事業に取り組むことになった。また遊漁船主会も、組織は残すもののNPO砂浜美術館にホエールウォッチングの窓口を置くこととし、4団体が一致団結するという目的は達成された。

2006年3月には、大方町と佐賀町が合併して黒潮町が



モンゴルでもTシャツがはためいた

誕生した。その際も、新町としての振興計画の中に砂浜美術館の理念と事業を継承していくことが明記された。「現在も町とはうまくパートナーシップを築けています」と村上さん。

現在、17名の専従職員を擁し、前述の業務のほか、地元ケーブルテレビ局の番組制作、ウェブ・ショップの運営、小学校での出前授業など幅広い事業を実施している。

ビーサン飛ばし大会など 多彩な併催イベント

ここからは、NPO砂浜美術館の事業を詳しく紹介しよう。

〈Tシャツアート展〉

概要は前述のとおりだが、期間中は多種多彩なイベントが併催される。2017年の場合、次のようなものだ。

- 笑顔の傘をさしてみよう！（MERRY PROJECT）…… MERRY PROJECTは、Tシャツアート展の審査員を務めるアートディレクター・水谷孝次さんが主宰するアートプロジェクトで、「笑顔は世界共通のコミュニケーション」がテーマ。その一環として、世界の子どもの笑顔がプリントされた傘を砂浜で開き、地元の小学生たちがさして歩いた。
- 砂浜ポスト……期間中、砂浜に郵便ポストを設置し、郵便局からも出張して切手やはがきを販売。潮風の中で家族や友人にお便りを書いてもらう。
- シーサイドはだしマラソン全国大会……砂浜をはだしで駆け抜けるレースで、Tシャツアート展より歴史が古く32回目を迎えた。
- 月夜の映画祭……砂浜に大きなスクリーンを立て、キャンドルの灯りに囲まれた夜の砂浜に座ったり寝そべったりしながら観覧席で映画を鑑賞。
- ビーサン飛ばし大会……ビーチサンダルを蹴り飛ばして飛距離を競う。
- 砂浜のひらひらステージ……砂浜を舞台に、さまざまなジャンルの歌、楽器演奏、ダンスなどを楽しむ。
- ホエールウォッチング……館長のニタリクジラに会えるかも。海上からTシャツを見るのも楽しみ。

一大イベントとなったこの催しを陰で支えるのが、Tボラと呼ぶボランティアスタッフだ。毎年8~10人程度を募集している。開会の前々日に集合してミーティングを行い、前日は展示作業。期間中は会場での受付や物品販売。終了翌日はTシャツの取り込み、たたみ作業をして翌々日解散。全9日間にわたるスケジュールで、滞在中の食事や



潮風のキルト展

ユニフォームは提供されるが、もちろん報酬はなく、交通費や宿泊費（廃校になった校舎を利用した施設で、特別割引あり）も自己負担。それでも、スタッフとして関わるからこそその濃密な出会いや体験があり、1人ひとりにとってかけがえのない思い出になっているようだ。

もう1点、特筆されるのは、Tシャツアートが海を越えて世界へ広がっていることだ。2009年、モンゴルで活動していた青年海外協力隊を通じて現地へ作品が運ばれ、大草原にTシャツがはためいた。2015年には、JICA四国とのコラボ企画「世界とHIRAHIRA～JICA みんなの笑顔美術館～」により、協力隊の任地10か国をリレーする巡回展が開催された。2017年は、やはり青年海外協力隊の縁で中米・ベリーズへ旅する。

11月には松原を背景に パッチワークキルトを展示

〈潮風のキルト展〉

文字通りパッチワークキルトのコンテストで、応募作品は浜の背後に連なる入野松原に展示される。松の緑を背景として、色とりどりのキルト作品が秋風に揺れる様子は圧巻だ。風の向きや強さ、光の当たり方などによって、同じ作品でも刻々とその表情を変える。自然と人間が力を合わせて作品をつくり上げていくような感覚は、野外ならではと言える。

黒潮町の特産物であるらっきょうの花が咲く11月に開催される。こちらも2016年（11月11～13日の3日間）が第22回と歴史を重ねており、初夏のTシャツアート展とともに、すっかり砂浜美術館の名物イベントとなっている。

募集する作品のテーマは「布を楽しむ」。応募規定は「小さな布の組み合わせを楽しんだり、モダンなパターンに挑戦したり、大胆に布で描いたり…おもいっきり、布を楽しんでみてください」と記す。

〈漂流物展〉

これまで、海辺に流れ着いたものはごみとしてしか見られてこなかったが、それも作品の1つとして捉えようという、ある意味で最も砂浜美術館のコンセプトを具現化したイベントだ。美しい貝殻、波に揉まれてアートそのものに変身した流木など、ロマンを感じさせる漂流物もある。かと思えば、農薬容器のように環境問題を考えさせるものもある。

直近では、2017年2月10日から3月5日まで、道の駅「ピオスおおがた」の情報館で開催されたほか、2016年9月には徳島でも開かれた。



砂浜トレーニング

〈体験プログラム〉

ホエールウォッチング、ビーチコーミング、天日塩作りなどの体験プログラムが用意されている。黒潮町（旧大方町）でのホエールウォッチングの歴史は小笠原に次いで古く、1989年から実施されている。入野漁港から出港して黒潮町沖へ出る、最大4時間のプログラムだ。

ビーチコーミングは、海岸に流れ着いたものを拾い集め、クラフトを作ったり収集して楽しむもの。砂浜美術館のプログラムでは、まず同館が所蔵しているさまざまな漂着物を見て触ってもらいながら、それぞれの漂着物からどんなメッセージが読み取れるかを説明する。その後海岸へ出て、実際に漂着物を拾い、室内に戻って思い思いのクラフトを作る。そうすることで、漂着物がごみではなく世界でたった1つの宝物になる。

毎日見ている風景の価値を 子どもたちに感じてほしい

〈小学校での出前授業〉

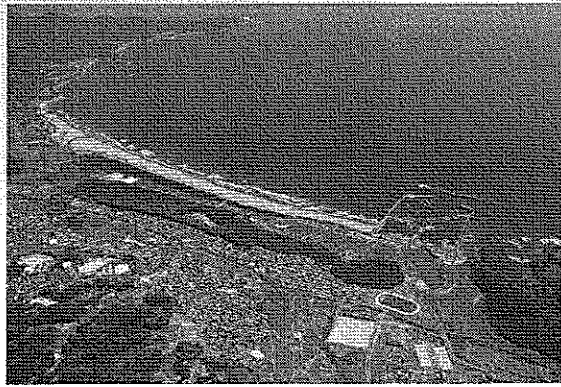
町内には8つの小学校があり、合わせて年間30回以上、砂浜美術館のスタッフが出かけて行って授業をしている。1つは4年生を対象としたTシャツアート展に関する授業で、まず砂浜美術館の理念や、その中でアート展がどう位置づけられるのかを説明。そのうえで各自が作品をつくり、アート展に参加する。もちろん会期中は、会場に足を運んで自分の作品と対面する。

また、前述のとおりTシャツアート展が海外へも広がっていることを生かし、国際理解教育も実施。今年であれば、ベリーズで展示する作品を子どもたちがつくると同時に、現地の社会や文化について学ぶ。このほか、単発で砂の彫刻づくりや漂流物についての話など。

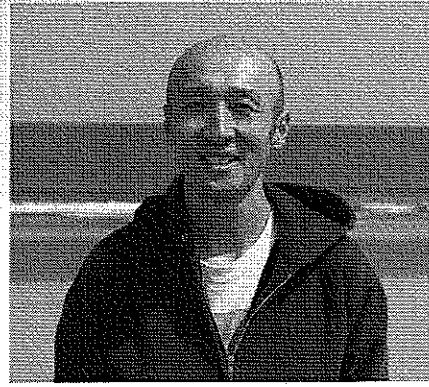
村上さんは授業のねらいを、こう話す。「子どもたちの多くは、高校を卒業したら町を出ていきます。それは仕方ないにしても、黒潮町が嫌で出ていくようにはなってほしくない。毎日見ている風景の価値を心のどこかにとどめてもらい、外へ出て黒潮町を宣伝してほしいし、将来何かきっかけがあれば戻ってきたいと思ってもらえるようにしたいんです。」

〈スポーツ合宿の誘致〉

土佐西南大規模公園内には、多目的芝生広場（サッカー場・陸上競技場）、体育館、球技場、テニスコート、トレーニング室などの体育施設がある。これらの施設に隣接して広がる砂浜も、格好のトレーニングの場として利用でき、「これだけ砂浜の近くでさまざまな運動施設が



黒潮町空撮



砂浜美術館理事長 村上健太郎さん

整っているところはあまりない」(村上さん)。

もちろん、温暖な気候もスポーツ向きだ。こうした環境を生かし、大学や小中高校などのスポーツ合宿を積極的に誘致している。イベントはどうしても一時期だけの集客効果にとどまるのに対し、スポーツ合宿は季節にあまり関係なくある程度まとまった数を呼び込むことが期待できる。

2011年に誘致活動を始めたときは年間300人ほどの利用実績だったが、2016年は約8500人まで増えた。大きな大会があったりして宿泊施設が町内で間に合わない場合は、隣の四万十市の宿を紹介している。「私たちも手数料収入を得られるし、地域のお弁当屋さんなども潤うので、今後力を入れていきたい」(村上さん)。

美術とはものの見方を変えさせ 新たな価値観を吹き込むもの

こうしたさまざまな事業を展開するようになったNPO砂浜美術館だが、前述した基本コンセプトは常に忘れないようにしている。「美術館」という言葉は、単に「砂浜という美しい“作品”がそこにある」ことを意味しているのではない。優れた芸術作品は、それを見る人にももの見方を変えさせ、新たな価値観を吹き込む力を持っている。砂浜美術館が目指しているのもその点だ。

たとえばTシャツアート展は、砂浜に杭を打ってロープを渡し、たくさんのTシャツをひらひらさせることで、見慣れた砂浜に全く新しい風景を現出させた。そして1つひとつのTシャツにプリントされた作品も、海と空の青を背景に、光と風を受けることで、机上に置いているだけではわからなかった別の表情を獲得する。

NPO砂浜美術館では現在、そんな考え方を共有してくれる地域にTシャツアート展を広げていきたいと、「HIRA HIRA フレンドシップ」と銘打った取り組みを始めている。その舞台は何も砂浜に限らない。山でも川でも、ロープとTシャツさえあればそこが美術館になり、当たり前のように思っていた場所に新たな価値が生まれる。

フレンドシップになりたいという希望者には、まず団体でTシャツアート展に応募してもらい、自分たちの作品を現地まで見に来てもらう。そして砂浜美術館講座を通じてその理念やこれまでの歩みを知ってもらう。その後、Tシャツアート展で展示された作品をフレンドシップの地元へ送って、それぞれの場所でTシャツがひらひらする風景をつくってもらおうというわけだ。Tシャツもキルトも、「自分たちのまちを楽しむためのツールであり、気持ちよくそこで暮らしていくためのツール」と位置づける。

漂流物展のねらいも、何にどんな価値を見出すか、各自の感性で自由に考えてもらうことだ。その背後には、ごみにしかならないような漂着物をなくして美しい砂浜を保全したいという思いもある。ただ、真正面から「砂浜を守りましょう」と訴えかけるのではなく、漂流物展やTシャツアート展などのイベントを通じて、1人ひとりの心の中で自由に砂浜の価値を見出してほしい。それこそが、砂浜をいつまでも守っていく本当の力になるということだろう。

日本一厳しい被害想定を踏まえ 防災学習プログラムも実施

黒潮町は、2012年3月に発表された南海トラフ巨大地震の新想定で、震度7、最大津波高34メートルと日本一厳しい数値になった。これまでも、100~150年に一度は大規模地震が発生してきた歴史がある。溢れるほどたくさんのお恵みをもたらしてくれる海が、ほんのときたま人間社会に鋭い牙を向ける。そのリスクは、確率にすれば0.00...%というレベルだが、そのわずかなリスクにきちんと備え、自然とともに生きるお作法=防災の知恵を身につける必要がある。

そこで、NPO砂浜美術館でも防災学習プログラムを実施している。講義、ワークショップ、フィールドワークで構成し、ワークショップではクロスロードという手法を用いて、災害時の状況を想定し自分の行動をシミュレーションする。またフィールドワークでは、緊急避難タワーや江戸時代後期に建てられた津波の碑を訪れる。

今後の展開について、村上さんはこうした取り組みも含め、「地域の教育現場でのプログラムをいっそう充実させていきたい」と話す。砂浜美術館のコンセプトから言えば、この地域に暮らす人々の営みもすべて作品だ。自然のお恵みを生かして和紙や天日塩を作る人、カツオ漁に従事する人……。「そういった文化を伝えるための旅行商品も開発していきたい。それによって、地元住民にも旅行者にもこの町の良さをわかってもらえると思います」。

課題としては、人材育成、職員の給与アップ、行政との定期的な情報共有とより深いレベルでの合意形成などを挙げる。

以上に見てきたとおり、砂浜美術館の取り組みはきちんとした哲学に裏打ちされたコンセプトと、その上に構築された柔軟な発想に基づく事業が特徴だ。「自分たちが楽しむことをすごく大事にしています。楽しむ力が、結果的に地域の力になると思うんです」という村上さんの言葉が印象に残った。



[サントリー文化財団トップ](#) > [サントリー地域文化賞](#) > [地域別受賞者一覧](#) > [砂浜美術館](#)



概要 [地域別受賞者一覧](#) [受賞者活動動画「地域文化チャンネル」](#) [ブログ「地域文化ナビ」](#) [フォトレポート「地域は舞台」](#)

活動詳細

四国

高知県 黒潮町

2016年受賞

砂浜美術館

砂浜を「美術館」に見立て地域資源を「作品」として展示

代表：村上健太郎 氏

2016年10月更新

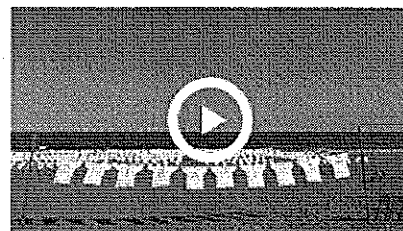
高知県西部、清流で名高い四万十川に近い黒潮町には、太平洋に面した4kmも続く美しい白砂の浜がある。ウミガメが産卵に上陸し、沖合はホエールウォッチングの名所という自然のままの砂浜、その浜に沿って続く美しい松原とラッキョウ畑。地元の誰もが子どものころから親しんできたこの風景をそのまま美術館に見立てたのが「砂浜美術館」である。

「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です」。このコンセプトの通り、上陸するカメ、浜を歩く小鳥などの足跡、さまざまな漂流物、走り回る子どもたち、こうした日常にある事象の中に面白さを発見し、展示作品にしている。この活動は、1989年、写真家・北出博基氏の「自分のとった写真をTシャツにプリントし砂浜で展示したい」というアイデアから、町の職員たちとデザイナーの梅原真氏が、将来の町のありかたを考え、今後も大切にすべきものは何かを議論する中でスタート。以来28年、多くの町民が「すなび」と親しみをこめて呼ぶ活動になっている。

「Tシャツアート展」から始まった美術館の活動は、「漂流物展」「潮風のキルト展」「シーサイドはだしまらソン」「砂の彫刻」など、年間を通して様々に開催されている。毎年の「Tシャツアート展」には、多くの観光客（2016年5月1日～6日は28,100人）が押し寄せる。町の人たちは売店を出したり、ボランティアで運営を手伝い、郵便局も砂浜にポストを立てて参加している。「すなび」の行事でみんなが元気になり、まちの元気の象徴にも

活動紹介動画 (01:50)

[動画を観る](#)



Tシャツアート展

なっている。2003年「NPO砂浜美術館」となり、現在常勤スタッフは17人、砂浜に隣接した公園の指定管理なども受託し、町の文化、観光、産業、教育の一端を担うまでになっている。

2009年、「Tシャツアート展」は海外に渡る。美術館メンバーの「モンゴルの草原でひらひらさせたい」というアイデアが「草原美術館」として実現した。他にも国内外からたくさん問い合わせがあり、「Tシャツアート展」開催のノウハウ、コンセプトを伝えるための「ひらひらフレンドシップ」を設けて対応。モンゴル、ハワイ、アフリカのガーナ、ケニア、国内では宮城県気仙沼市から長崎県野母崎町までの全国6箇所で開催されている。

砂浜美術館の遊び心に満ちた、自分たちの町を好きに楽しもうという活動に惹かれて、全国から多くの若者たちがボランティアとして参加し、そのまま移住して運営メンバーの中核になっているスタッフもいる。楽しみながら「地元の資源を活用した地域づくりを実現しよう」という「砂浜美術館」の発想、考え方は、次の世代に引き継がれ、さらには地域、国の枠を越えて広がっている。



サントリー文化財団 SUNTORY FOUNDATION

財団概要	サントリー学芸賞	サントリー地域文化賞	研究助成	海外出版助成
概要	サントリー学芸賞とは	概要	概要	概要
設立趣意	受賞者一覧・選評	地域別受賞者一覧	申請要項・申請方法	申請要項・申請方法
沿革		受賞者活動動画 「地域文化チャンネル」	助成先・報告一覧	助成図書一覧
評議員・役員		ブログ「地域文化ナビ」		
情報公開		フォトレポート 「地域は舞台」	調査研究	
財団関連書籍			概要	
アーカイブ			国際研究プロジェクトJGC	
アクセス			アステイオン	

企業の方へ

学生・学校関係者の方へ

環境教育指導者・団体の方へ

メディア関係者の方へ

JEEFについて

あなたとJEEF

JEEFの活動

ご入会/ご寄付のお願い



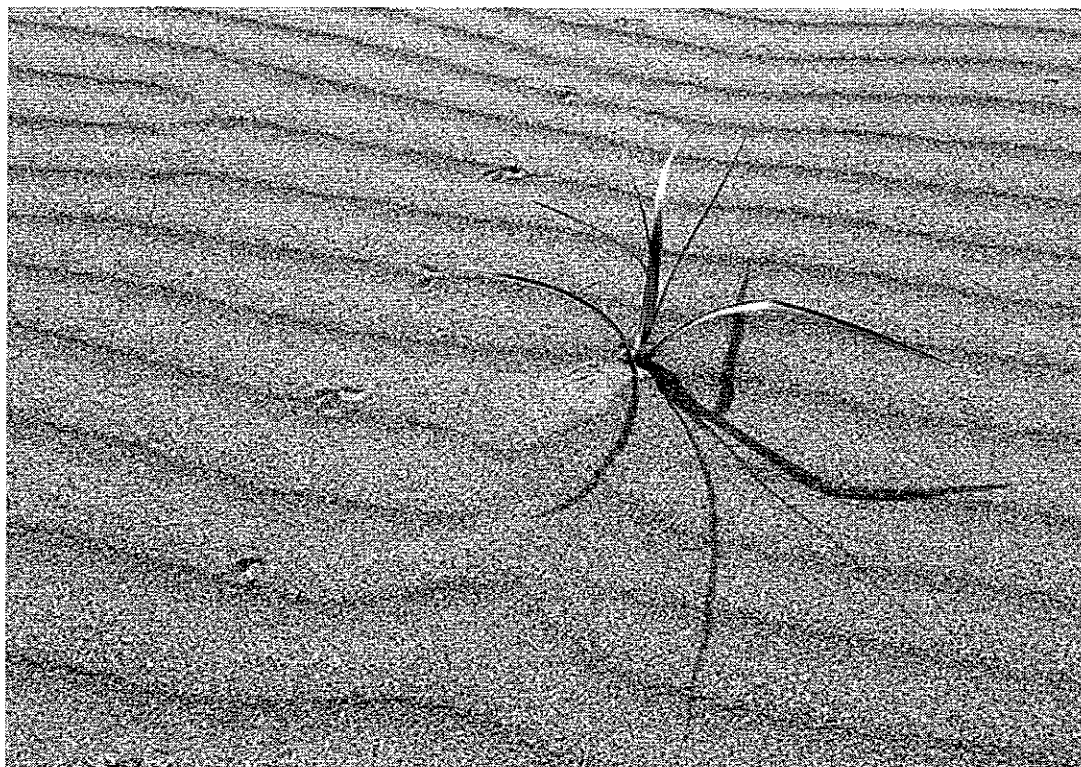
機関誌「地球のこども」

[トップページ](#) > [機関誌「地球のこども」](#) > [「未来を豊かに」を仕事にする, 特集](#) > [美しい砂浜が美術館](#)
～NPO砂浜美術館理事長 村上 健太郎さんの場合～

美しい砂浜が美術館

～NPO砂浜美術館理事長 村上 健太郎さんの場合～

2015/08/21 カテゴリー: [「未来を豊かに」を仕事にする, 特集](#)



文: 村上 健太郎 (NPO砂浜美術館理事長)

私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。

これが砂浜美術館のコンセプトです。名前の通り、砂浜美術館は建物のない美術館です。長さ4 kmの砂浜を美術館に見立て、そこに流れ着く漂流物や、鳥がつける足跡など、地域に当たり前にある資源や風景が作品です。ですから、365日24時間オープン、BGMは波の音、夜の照明は月の光です。でもそれだけでは「そこに美術館がある」ことが伝わりづらいので、「Tシャツア

2015年7、8月号



[この号について詳しくみる](#)
[バックナンバー一覧](#)

[地域に根ざした農業を1からはじめる](#)
～ヨシオカ農園 吉岡 龍一さんの場合～

[住民による自然資源の適切な利用を通じた、生計向上と環境保全型農村を目指して](#)

[科学を伝え、市民と共に考える](#)
～科学館勤務 科学技術インタ

ート展」をはじめとした四季折々のイベントを実施しています。「地域資源から新しい価値をうみだすこと」が私たちの活動で大切にしていることで、現在は、地域のケーブルテレビの番組制作や町の観光振興、砂浜に隣接した高知県の都市公園の指定管理業務、地域の特産品や旅行商品などを販売するweb ショップの運営などを行い、私を含め約20名のスタッフが仕事をしています。



漂流物展

貝がらや島崎藤村の“ヤシの実”の詩のようにロマン溢れるものから、農薬容器など環境問題を考えさせられるもの、また、どんな芸術家もかなわない程に“自然彫刻”された流木など、世界中から集まる作品は限りはありません。

2枚の写真が砂浜美術館を訪れるきっかけに

2001年、当時の仕事を退職後、JEEFの自然学校指導者養成講座を受講しました。そこで受講した「地元学」という授業の中で、講師の方が砂浜美術館のことをお話されたのが、砂浜美術館を知るきっかけです。素敵なおコンセプトと2枚の写真（左の何も無い砂浜の写真とTシャツがひらひらしている写真）が私の人生を大きく変えました。それまでは、富士山のような国立公園での圧倒的な自然が、フィールドと考えていた私にとって、聞いたこともない町でした。そして、そのままの砂浜を美術館にみたと、地域の人たちが楽しみながら活動する取り組みはとても新鮮でした。講座終了後、「砂浜美術館でスタッフを探しているみたいだよ」との情報を得て、砂浜美術館を訪れました。運よく、スタッフとして採用していただきました。

二ブリター 小川 達也さんの場合

美しい砂浜が美術館
～NPO砂浜美術館理事長 村上 健太郎さんの場合～

いのちの営みを「ひとつのおさら」にのせて
～カラースジャパン株式会社 西村 和代さんの場合～

よい師匠に会おう！
～青木将幸ファシリテーター 事務所 青木 将幸さんの場合～

アジアの開発途上地域で国際環境教育活動を目指す人のために 1

都内でわくわく自然体験！

インドネシアを全身で感じて

カテゴリー

worldexpress (13)

事業レポート (79)

GEMS (2)

JICA草の根技術協力事業
ブータン王国八における地域に根ざした持続可能な観光開発と人材育成プロジェクト
(6)

JICA草の根技術協力事業
ブータン王国ポブジカにおける地域に根ざした持続可能な観光の開発 (6)

NEC森の人づくり講座 (2)

SAVE JAPANプロジェクト
(1)

インドネシア (6)

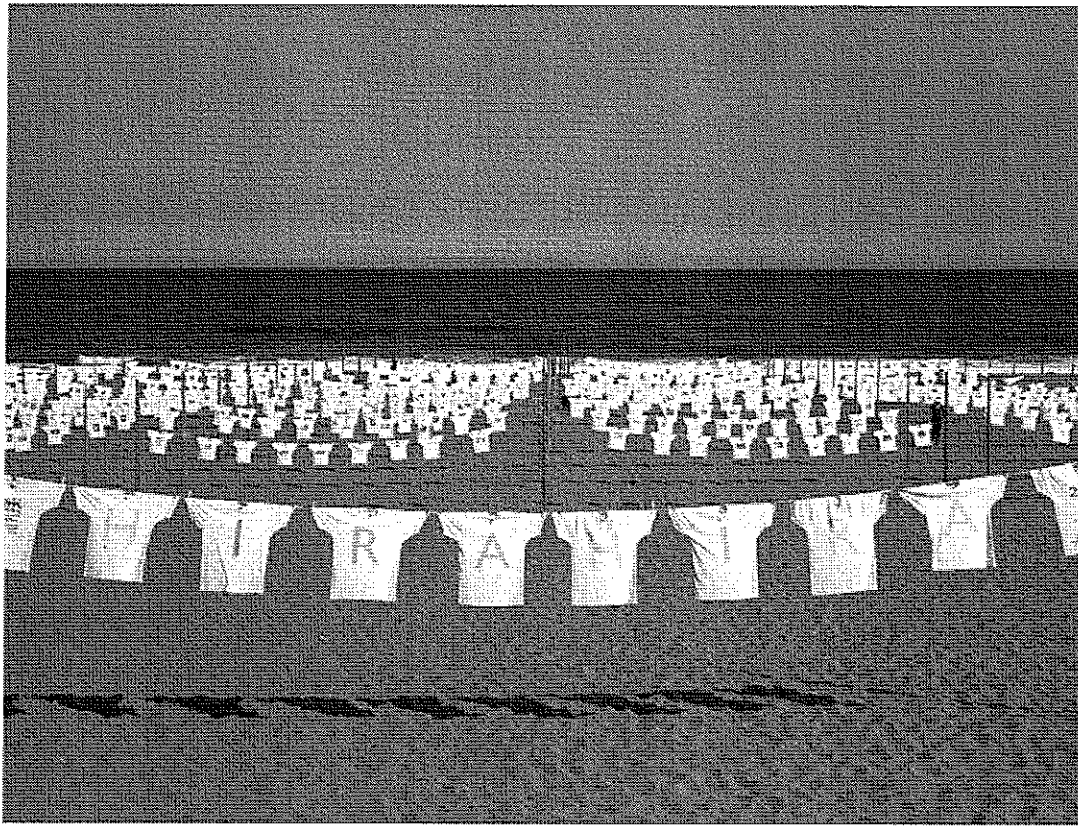
カンボジアにおけるオオツル及び生息地の保全に関する環境教育・普及啓発事業 (1)

きのこたけのこ里山学校 (2)

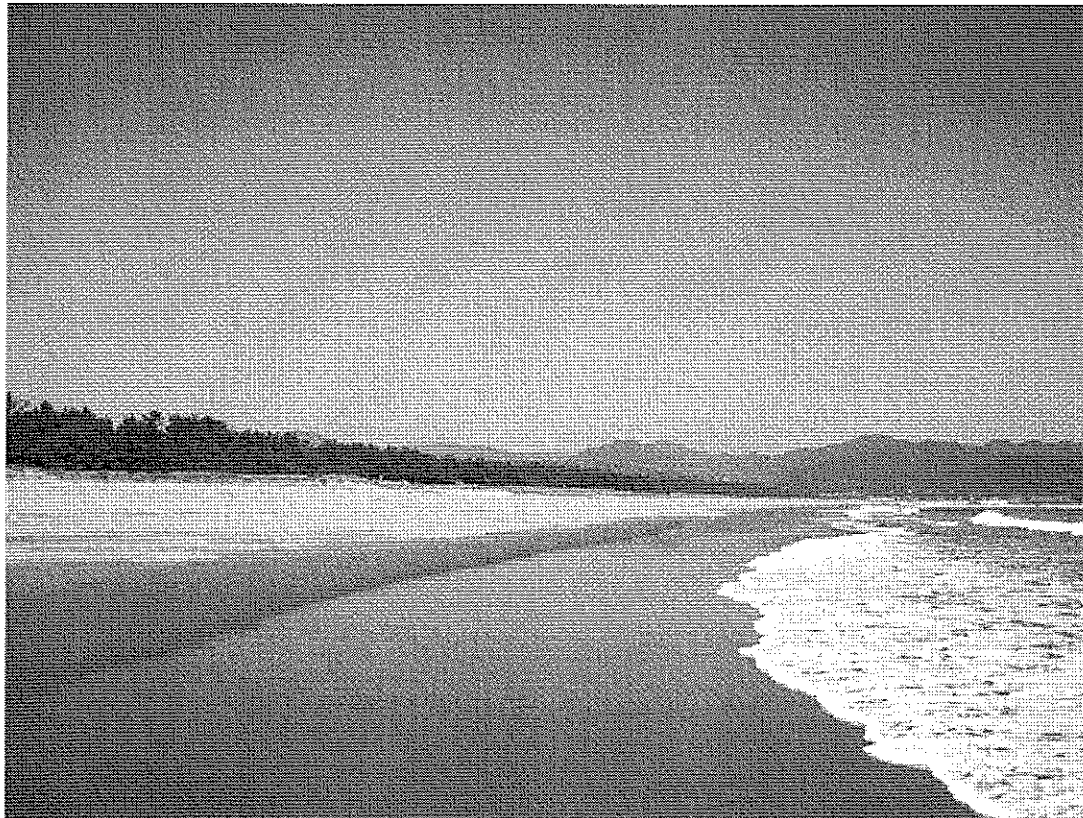
ハイフォン市都市環境整備にかかる環境教育・普及啓発プロジェクト (3)

バングラデシュ国における事業 (18)

企業の人材育成事業 (1)



人生を大きく変えた2枚の写真1:ひらひらします (Tシャツアート展)



人生を大きく変えた2枚の写真2:普段の砂浜美術館

砂浜美術館に出会うまで

砂浜美術館の活動に深く共感できたのは、幼少期からの生活環境も大きく影響していると思います。

市民の市民のための環境公開講座 (4)

日本の環境を守る 若武者育成塾 (7)

東京シニア自然大学 専科 (2)

東京シニア自然大学 本科 (1)

清里ミーティング (3)

王子の森自然学校 (2)

国際事業コラム (22)

地域の課題解決あの人に聞きました! (4)

投稿 (4)

次世代のホープ達 (3)

清里ミーティング30thコラム (1)

特集 (102)

「伝える」ちから (3)

「未来を豊かに」を仕事にする (5)

「食」をとおしていのちをつたえる (3)

esdユネスコ世界会議を終えて (4)

IEEF25周年 私を形づくっている自然の原体験 (3)

アクティブラーニングってなに? (3)

あなたの買い物が社会を変える (3)

クリスマスの景色が変わる? 生き物の変化と気候変動を知る。 (3)

さあ! 2枚目の名刺をもとう (3)

サイエンスと環境教育 (1)

シニアからの環境教育 (2)

メディアを使った間接コミュニケーション (3)

もうすぐ春がやってくる!

写真で伝えるセンス・オブ・ワンダー (1)

人気アウトドアメーカーはどんな環境の取り組みをしているの? (2)

今、子どもに向けたワークショップが熱い! (2)

幼稚園から中学まで豊かな自然に囲まれた環境で学校生活を送りました。そして大学3年間は、幼い頃から大好きだった富士山で、環境省が実施していた、山頂に2週間ほど宿泊しながら行う清掃アルバイトに参加。4年時には、山頂の測候所でお世話になりながら、富士山をフィールドに卒業論文を書かせて頂く機会をもちました。

当時は国立公園のレンジャーの仕事にあこがれていましたが、大学卒業後は違う分野で仕事をしていました。でもどこかに、「自然の面白さ、すばらしさを伝える仕事をしたい」、という思いがあったのでしょう。前述しましたが、「自然学校指導者養成講座（第3期生）」の存在を知り、仕事を退職し受講しました。3ヶ月間の座学のあとのOJTでは、富士山のふもとで活動するホールアース自然学校で多くのことを学びました。

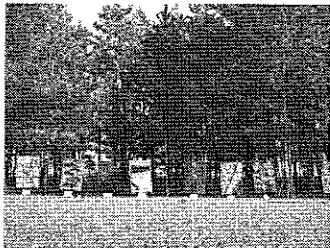
修学旅行で訪れた子どもたちと一緒に自然のフィールドを歩きながら、インタープリテーションし、自然の中で子どもたちの表情が変わる瞬間に立ちあえたことは、「これを仕事としたい」と強く感じた経験でした。

砂浜美術館に出会ってから

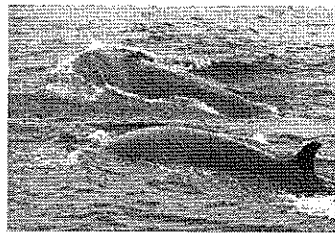
砂浜美術館の考え方や取り組みに惹かれ、縁もゆかりもないまちに移住して13年目になりますが、地域で継続して仕事をしていくことにも、いくつもの要素があると思います。

当時は単身で移り住んだ私も、気がつけば結婚し、3人の子どもの父親となりました。私の出身は神奈川県ですが、子どもたちのふるさとはこの高知県黒潮町であることを実感したとき、子どもたちが大きくなって、いずれ一旦はこの町を離れていくとしても、自分の町のいいところ、自慢できるところを、自分の言葉で語るができる人であってほしいと、強く願うようになりました。

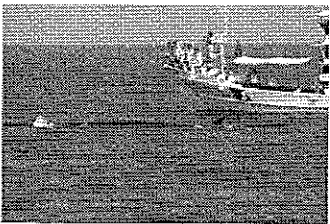
そして今年、これまでお借りしていた古い家を改修し、土地を譲って頂きました。改修をしてくれた大工さんや関わってくれる職人さんも、ほとんど地元でこれまでお世話になっていた人。そして、自分の名前が記載された土地の登記簿を見て、「また少し、この地に根をはれたかな」と感じるとともに、大好きなこの町のありのままの人・風景・自然が、これから先も変わらず残ってほしい、そのために自分ができることは何かを改めて考えるようになりました。



らっきょうの花見と潮風のキルト展



館長のニタリクジラ



ホエールウォッチング

いずれ砂浜美術館での仕事をパトナタッチして離れたとしても、この黒潮町で生活していくでしょう。砂浜美術館の考え方をもちて町をみれば、そこに新しい価値を見出し、仕事が生み出されるはず。『地方創生』が様々なところで話題にのぼりますが、砂浜美術館の視点で日本のい

[今年こそ、エコツアーに行こう!](#) (6)

[今年こそ資格をとろう! 自然体験型環境教育の資格・認定](#) (1)

[変わる! プラスチックの使い](#) 方 (3)

[外であそぼう!](#) (4)

[夫婦で森に生きる](#) (3)

[子どもたちの自立を育むコミ](#) ュニケーション (3)

[学校で有効な環境教育的教育](#) 手法 (3)

[市区町村の都市型環境教育の](#) とりくみ「水」「森」「施設」 (3)

[日中韓の環境教育の今](#) (3)

[日本ならではのSDGsって?](#) (4)

[海の環境問題と環境教育](#) (3)

[清里ミーティング30th](#) (5)

[環境教育×フェス](#) (4)

[環境教育って効果があるの?](#) (2)

[自然学校の今](#) (7)

[里山イニシアチブ 野生動物](#) と向き合う (1)

[食べ物を育てる×教育](#) (2)

[食品ロスから環境を考える](#) (3)

[理事コラム](#) (2)

[環境教育のものさし](#) (5)

[考えるっておもしろいかも!?](#) (25)

[鈴木みきの山便り](#) (5)

最新の記事

[JEEF理事のイマコレ! 今注目していることは「新しい学び方」です。](#)

[考えるって面白いかも!? パート4: 第6回 学びを測る、成長を図る](#)

[社会的インパクト評価の波を活用しよう!](#)

[「自分が自分で自分を育てる」を考えるキャンプ](#)

ろいろな地域を見たら、もっともっと気持ちよく暮らすことができる豊かさや価値観があるはず
です。これからも砂浜美術館や自分自身の暮らの中から、そうしたメッセージを発信していきた
いと思います。

世界（開発途上地域）の食・農
事情 第4回カーナートの伝統的水
利システムによる営み イラ
ン・イスラム共和国



村上 健太郎（むらかみ けんたろう）

976年神奈川県生まれ。地域資源を独自の発想で楽しみながら活動をしている「砂浜美術館」
の魅力に惹かれ、2002年12月、高知県黒潮町に移住。ちょっとあやしい幡多弁（地方の方
言）をあやつりながら、日々地域の魅力を発信している。JEEF主催の自然学校指導者養成講
座3期生。

NPO砂浜美術館

〒789-1911 高知県幡多郡黒潮町浮瀬3573-5 ビオスおおがた情報館内 お問い合わせ
【TEL】0880-43-4915 (9:00~17:00) 【WEB】<http://www.sunabi.com/>

いいね！ 0

Tweet

[ページトップへ](#)



日本環境教育フォーラム (JEEF)
4,788 「いいね！」の数

このページに「いいね！」

お問い合わせ

「いいね！」した友達はまだいません

[HOME](#) | [JEEFについて](#) | [JEEFの活動](#) | [あなたとJEEF](#) | [ご入会/ご寄付のお願い](#) |

[English](#) | [アクセス](#) | [サイトマップ](#) | [ニュース](#) | [事務局日誌](#) | [地球のこども](#) | [プライバシーポリシー](#) |

[お問い合わせ](#) | [企業の方へ](#) | [環境教育指導者・団体の方へ](#) | [学生・学校関係者の方へ](#) | [メディア関係者の方へ](#) |

公益社団法人日本環境教育フォーラム

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル1階 [MAP](#)

TEL 03-5834-2897 FAX 03-5834-2898

Copyright JEEF. All rights reserved

宮崎県美郷町

フィールドスタディ型政策協働プログラム
オリエンテーション

美郷町の紹介

美郷町は、平成18年に3つの村が合併し誕生した町です。
宮崎県北部の中山間地域に位置し、四方を山々に囲まれており、自然豊かな町です。

人口	4,994人
65歳以上人口	2,554人
高齢化率	51.1%
面積	448.7km ² (うち山林が約92%)
気温 (2014気象庁)	最高気温 36.2度 最低気温 -6.6度
特産品	宇納間備長炭、しいたけ、南高梅、 完熟きんかん、栗など



美郷町の観光施設

石峠レイクランド



西の正倉院



南郷温泉「山霧」



中小屋天文台

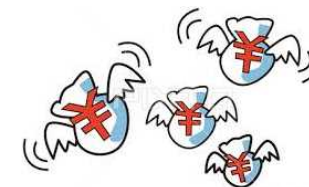


プログラム提案に至る背景について

本町は県内トップの高齢化率であり医療費及び介護給付費ともに増加している



その主な要因のひとつとして・・・



医療費増

医療費に係る原因疾患の第3位が筋骨格系疾患（転倒・骨折含む）となっている。

介護給付費増

介護給付費の約1／4が筋骨格系疾患（転倒・骨折含む）に起因している。



なんとかしたいが都市部のようなジムもない・・・
NPOや民間事業所もないし・・・

そこで「いきいき百歳体操」を広めていくことに！



いきいき百歳体操について

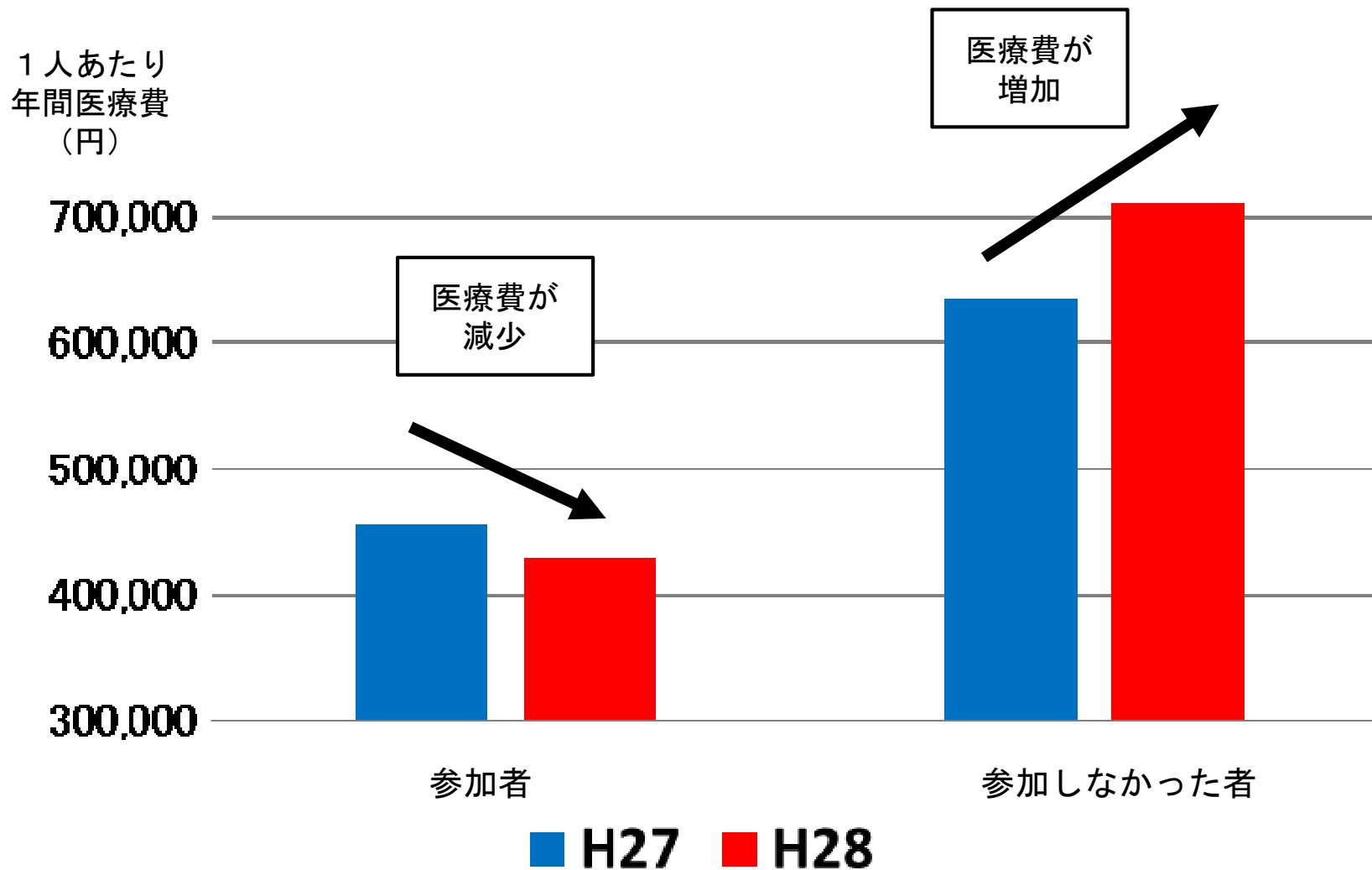
- 開始時期 平成27年12月～
- グループ数 59グループ
- 参加者数 約450名
- 開催状況 各グループ週1～2回(DVDを観ながら30分程度)
- 開催場所 主に近所の公民館など
- 町の支援 おもりセット及びDVDの貸し出し
定期的な指導員派遣(体操指導・効果測定)
測定項目は、5m歩行速度と30秒椅子立ち上がり回数

- 期待される効果

「部屋の段差が気にならなくなってきた」「ズボンの上げ下ろしが楽にできるようになった」「歩くのが楽になり、手すりに頼ることが少なくなった」など参加者の多くが効果を実感している。
また、医療費削減効果が期待できると思われるようなデータもでてきている。



いきいき百歳体操と総医療費（後期高齢者医療※）との関係



※後期高齢者医療・・・主に75歳以上の方が加入する医療保険制度

※参加者・・・後期高齢者医療加入者で、平成28年度末までに参加した者（362名）

※参加しなかった者・・・後期高齢者医療加入者で、平成28年度末時点で参加していない者（1,289名）

そんな素晴らしいツールなのですが課題も・・・

事業開始から3年が経過したが、徐々に参加者が減少しており（多い時で約600名）、直近では約450名まで減少している。その主な要因としては、以下のことが推測されます。

【要因その1】

最初の3ヶ月間きちんと続けられる方は、効果を実感することができるが、体操自体が単調な運動なため、その前に飽きて辞めてしまう方がいる。

【要因その2】

高齢者の特性上、効果測定（30秒椅子立ち上がり回数・5m歩行）の数値が際限なく上昇するわけではないため（現状維持が続くことも多い）、モチベーションの維持が難しい。

【要因その3】

（自治体共通の課題であるが）男性の参加者が極端に少ない（約16%）。
本事業に限らず、いわゆる「通いの場」は、男性から敬遠される傾向にある。

【要因その4】

高齢になっても日中は現役で農作業や畑仕事を行っている方が多く、「**自分は日頃体を動かしているから必要ない**」と考える方が多い。



そこで・・・今回のプログラムの内容として

無関心層を巻き込むアプローチ方法について検討していただきます



フィールドワーク

社会福祉協議会の指導員に同行し、実際に自主運動グループの活動現場（各公民館等）に出向いてもらい、参加者と交流していただきます。その際、「参加者が実感している効果や感想」などを中心に聞き取りしていただきます。また、参加していない方に対し「その理由」「関心あるもの」などについて聞き取りしていただきます。

検討・提言

この体操の重要性や効果について、無関心者層（ターゲット）に対しどのようにPRすれば参加者の増加に繋がるのか、その方法を検討してもらい提案していただきます。たとえば・・・

- 男性参加者を増やすためのPR方法
- 効果を実感している方の口コミを効果的に広げていく方法
- 休止した方に再び復帰してもらうためのアプローチ方法
- 本町が独自に運営しているケーブルテレビ局を活用した周知方法
※専門機材・編集スタッフが常駐しており、撮影、映像編集、放送技術等の体験が可能です。アナウンサーとしての出演も可能です！



要するに、参加者を増やしたいんです（特に男性を！）



「大学生」に期待すること

- 参加者の平均年齢は76歳ですが、もっと若い世代も取り込んでいきたいと考えており、そのためには、若い視点を活かしたPRを行う必要があります。
- 各会場では、いつもある程度固定されたメンバーで実施しているため、外部の方（特に若い世代）が訪れることは、参加者にとって大変刺激になります。
これまでの事例を踏まえると、以下のことが期待されるところです。
 - 町外の方が見学に来られると、参加者はとても喜ばれる。
 - 若い異性がいるだけで高齢者は張り切る。
 - 外部の方に見られているというだけで気持ちにハリが出て、姿勢や体操の動きがいつもより改善される。
 - （自分の孫の世代である）大学生が来ることはとても珍しいことなので、それだけで噂になり、それがきっかけで参加しようと思う方が増える。
 - きっと学生から褒められる（若いですね！元気ですね！）ので、それだけでやる気が出る。



**要するに、若者が来ると高齢者は喜ぶのです！
ですから医療分野の専門知識は必須ではありません。**

**この体操は全国で広まっていますが、男性の参加率の
低迷は自治体共通の課題であります。
美郷モデルを確立して、ぜひ全国展開を！**

東大生の皆さんぜひ美郷町に来て
くださいね、まっちょるよ～！



現地活動における受け入れ体制について

○現地活動期間

8月～9月の間の2～3週間程度を予定しています。
必要に応じて追加で別の時期に活動していただくことも可能です。

○滞在予定施設

昨年オープンしました町営のお試し滞在施設を利用させていただく予定です。

温泉施設が隣接していますので、是非温泉もご利用ください。

基本的に自炊となりますが、温泉施設内に食事処あり。



○町への移動について

【羽田空港→宮崎空港】	飛行機で約1時間30分
【宮崎空港駅→日向市駅】	特急電車で約1時間
【日向市駅→役場】	車で約30分（送迎あり）

お試し滞在施設に隣接している石峠レイクランドではウェイクボード体験もできます



○現地活動での移動環境

社会福祉協議会指導員と共に社用車に同乗していただきますが、必要に応じて随時庁用車でも対応いたします。

○せっかくの機会ですので・・・

すばらしい観光資源と地元のおいしい料理を堪能してください！

古民家をリノベーションし地元食材を活用した本格派のピザ屋さんもありますよ～





鹿児島県錦江町

過疎地域におけるシェアカーを活用した交通手段導入の提案

企画書

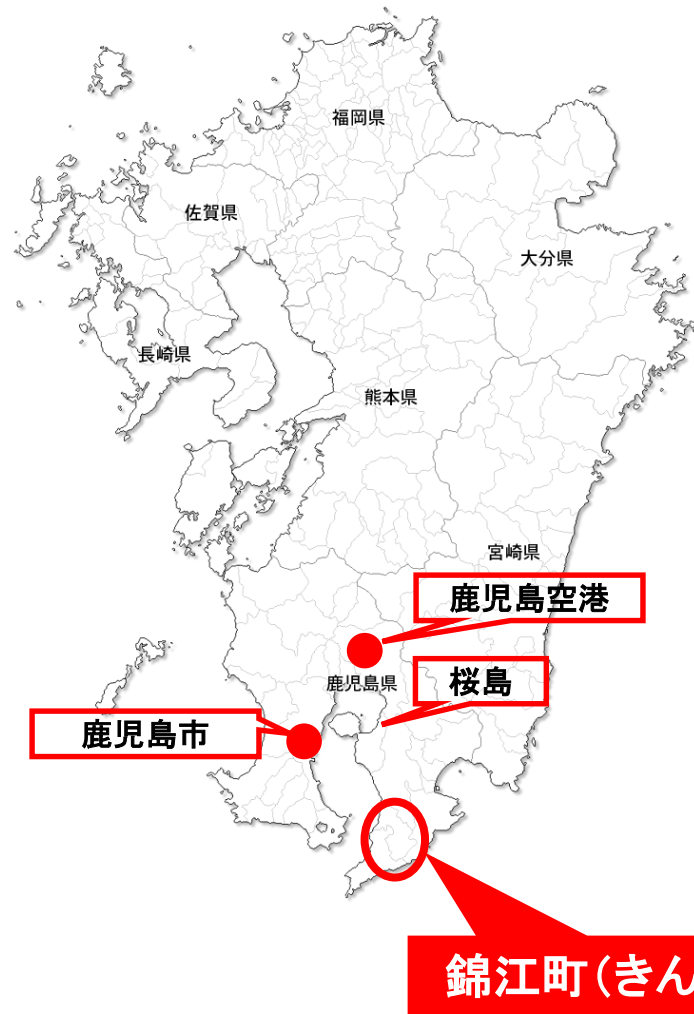
鹿児島県錦江町の概要

鹿児島県の概要

面積	9187.01m ²	国土地理院データ
人口	1,648,177人	2015年国勢調査
黒牛、豚、ブロイラー、さつまいも、養殖ブリなど全国1位		

錦江町の概要

面積	163.19m ²	八王子市より やや小さい
人口	7,923人	2015年国勢調査
構成比	10.3%	15歳未満
	46.7%	15歳～64歳
	42.9%	65歳以上
農業産出額	90億8千万円	2015農業センサス
特産：牛、豚、ブロイラー、茶、大根、養殖ヒラマサなど＋焼酎「魔王」		



～サテライトオフィスエリアの気候～

降水量2,000mm

平均気温 **20°C**

※鹿児島県平均18.5°C

移動時間
車でたった20分

～高原地域の気候～

水量2,500mm

平均気温 **17°C**

※東京都平均16.6°C

鹿児島県と東京都の差 1.9°C

町内気温差「3°C」



錦江(きんこう)町って日本の縮図みたいな場所なのです!!

花瀬自然公園(千畳敷の石畳)



神川大滝公園(高さ25m幅30m)

学生の皆さんに入っていたきたい地域 ～宿利原(やどりはら)～

2018.10.1現在

航空写真



大根やぐらライトアップイベント



人口	456人
世帯数	246世帯
高齢化率	54.9%
標高	200m
主な産業 (農業)	葉タバコ、干し大根、甘藷、 生姜、畜産
学校	小学校1校(11人)
自治会数	10自治会

まちづくりワークショップ



『宿利原中学校再活用のための意見交換会』

で出された意見(子ども達・女性部・PTA・サロン参加者)

地区に住む自分、そして周りのためを
思って考えられた意見の数々、、、

子ども・
PTA

- ・ 放課後勉強する場所がほしい。
- ・ 団体スポーツや他校と交流したい。
- ・ 病院やレストラン、商店がほしい。

女性部

- ・ 地域全体の老人サロン開設。
- ・ 学童保育（見てもらうだけでもいい）
- ・ 民泊施設や自分の資格を活かせる場所。エステや美容室など！（自分の技術を提供し喜んでもらえたら）
- ・ ボランティアする側、される側が元気になれる場所！

高齢者

- ・ 送迎セットのサロン教室
- ・ 高齢者だけではなく若い年代とも触れ合いたい。
- ・ 宅配給食もいいが、自分の料理の腕で忙しい主婦を助けたい！
- ・ 元気なうちは人の役に立ちたい。
- ・ 一人暮らしのための食堂がほしい。 ・ 交通が不便
- ・ 特産の芋を焼き芋にして都市部の人に食べてもらいたいなあ



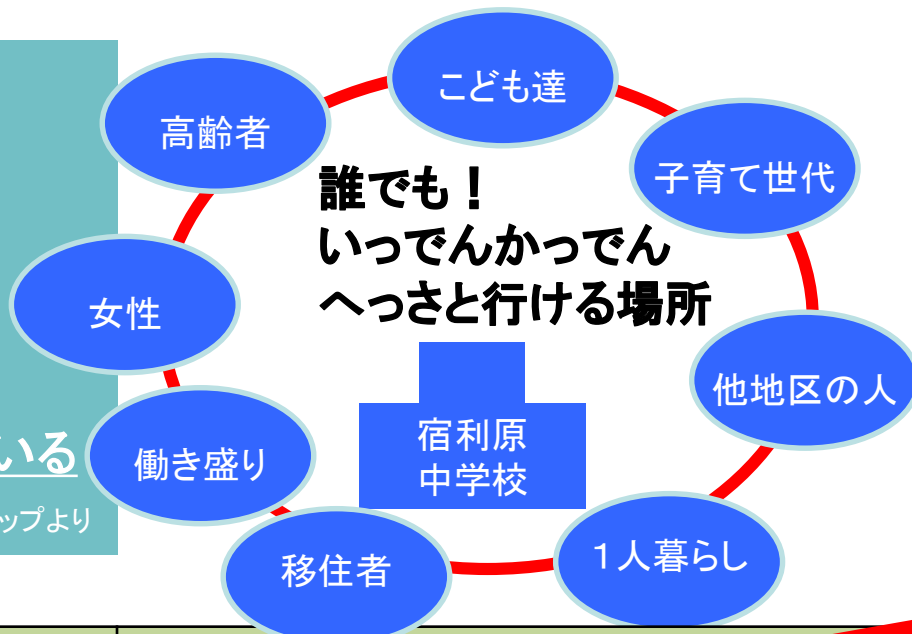
〈小さく始めてみんなで成長していける地域づくり〉

やどばいみんなであれあい・支えあい地域づくり事業

拠点活用の
3つのキーワード

1. 触れあえる
2. 誰かの役に立つ
3. 交通が確保されている

※H29年度再編事業検討ワークショップより



支える予算

地域への思いを持つ方からの『ふるさと納税』

少しずつステップアップ

話合い 機関	宿利原中学校 運営委員会	【やどりはら会議(仮称)立ち上げ】 ※中心話し合い機関		
		【若者・子育て世代の語る場づくり】 40歳以下程度の地域のメンバーが自由に集まり、語らう場づくり		
個別 取組 み (案)	【お茶一杯活動】 【学童的見守り活動】 ※住民の方々の得意分野を持ち 寄る講座やサービスの提供を行 なうチャレンジショップ。	【お役立ちチャ レンジショップ】 【地域商店】	【青パト隊による見守り 活動】 【ちょっと稼げるお仕事の 創出】等	【支えあいの公共交 通網づくり】 「やどばいdeおでばい」 (地区内の交通接続・シェアリング エコノミーの活用)

学生の皆さんと一緒に取り組みたいこと

○現状

- (1) 超高齢化地域であるにも関わらず、コミュニティバス(町委託運行・週2回)の利用率が33.1%
- (2) 2035年には高齢化率が60.3%
- (3) 自治会(最小単位の自治組織)加入率は84.8%(町平均87.9%)
- (4) 住民アンケートでは、高齢者は移動手段(公共交通)の整備(強いニーズ)を求めている。

○町の仮定

小規模農村地域でありながら、自治会加入率が低いということは、自治会との親和性や親密すぎる人間関係が「生活のしにくさ」につながっているのではないか。

一方、小規模地域ならではの関係性の深い移動ツールが必要なのではないか。

○学生の皆さんに期待すること

当地域のコミュニティの意識的な隙間をフィールドワークを通じて吸い上げてもらい顔の見える関係性の中でのシェアリングエコノミーという移動手段が当地域で活用できるものかを検証して欲しい。

また、当地域には高齢者の見守りをする自主防犯ボランティア団体(青パト隊8人)が結成されており、安否確認の巡回を実施しているが、その団体を活用したシェアリングエコノミーの可能性についても検証をして欲しい。

(具体例)

- ・10自治会住民への個別ヒアリング
- ・交通手段についてのワークショップ
- ・民間企業又は自主防犯ボランティア団体とのシェアカーの短期社会実験の企画運営
- ・10年後の地域交通手段の企画提案